

教科(科目)	国語(現代文B)	単位数	単位	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	第一学習社 『改訂版 現代文B』					
副教材等	浜島書店 『常用国語便覧』		尚文出版 『常用漢字ダブルクリア』			

1 学習目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

大学進学希望者が多いことから、

- ① 受験に対応できる評論、小説の読み方の習得を目指します。
- ② 漢字や語彙などの基本事項を身につけます。
- ③ 筆者の主張を読み取り、自分の考えを確立していきます。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	課題考査 評論(一)	長倉洋海 『写真の持つ力』	・評論の読み方に習熟する。 ・写真というメディアに対する筆者の考えをふまえて、ジャーナリズムの問題と可能性について考える。	1 8	定期考査 授業の取り組み
5	中間考査			1	
	小説(一)	恩田陸 『骰子の七の目』	・小説の基本的な読み方を習得する。 ・一人称の視点で書かれた短編小説を読み、その構成や文体のおもしろさを読み味わう。	10	定期考査 授業の取り組み
6	評論(一)	岩井克人 『未来世代への責任』	・評論の読み方に習熟する。 ・環境問題について経済学的な側面から理解し、その解決方法について考察を深める。	7	定期考査 授業の取り組み
7	期末考査			1	
	評論(三)	浜田寿美男 『身体の個別性』	・評論の読み方に習熟する。 ・人間のあり方はどのようなものか、また、他者との関わりはどうあるべきかについて、考えを深める。	11	定期考査 授業の取り組み
9	小説(二)	森鷗外 『舞姫』	・ある程度の長さのある小説の読み方に習熟する。 ・文語体の小説を読むことに慣れる。 ・近代の代表的な小説を読み、時代や人間のあり方について理解を深める。	16	定期考査 授業の取り組み
10	中間考査			1	
	評論(四)	大澤真幸 『リスク社会とは何か』	・評論の読み方に習熟する。 ・リスク社会の特徴や原因、問題点について理解を深める。	13	定期考査 授業の取り組み
11					

12	評論 (五)	夏目漱石 『現代日本の開化』	<ul style="list-style-type: none"> まとまった分量のある評論を読解する。 近代日本から「日本の将来」について述べた評論を読み、近代化の功罪について思索を深める。 	13	定期考査 授業の取り組み
	1 2 3	期末考査 詩	中桐雅夫 『足と心』 以倉紘平 『冬の日』 萩原朔太郎 『自然の背後に隠れて居る』	1 13	
	課題学習		<ul style="list-style-type: none"> 詩の読み方に習熟する。 抽象的な現代詩のおもしろさを味わう。 日常を少し違う角度から見る視点のおもしろさを味わう。 近代の代表的詩人である萩原朔太郎の世界を味わう。 		
			1年間の学習を通して、文章について、評論や小説をもとに深く考察する。		

計96時間 (55分授業)

4 課題・提出物等

- 週末課題を今年度も継続し、定期考査の範囲に含めます。
- 週末課題の提出を定期的に行います。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)			(知識・理解)
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み (授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物の取り組み ・定期考査 ・小テスト などから、総合的に判断します。				

6 担当者からの一言

最終学年となり、受験に対応できる力の養成を目指します。また、それぞれの教材に触れることで、現代社会の問題点を考えたり、時代や人間のあり方について理解を深めたりしていきましょう。同時に、漢字や語彙力などの基本的な力もしっかりと身につけて卒業できるように、日々学習に取り組んでください。

(担当：井上)

令和4年度授業シラバス（古典A）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
国語	古典A（文系選択）	3	2	
科目の目標	古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。			
使用教科書	『高等学校 改訂版 古典A』 大鏡 源氏物語 諸家の文章 (第一学習社)	副教材等	「常用国語便覧」(浜島書店) 「体系古典文法」(数研出版) 「精選漢文」(尚文出版)	

1 学習の目標

- (1) 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深める。
- (2) 古典についての理解や関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ① 家庭学習で見逃していた、意味の分からない語句が出てきたら、その都度辞書で調べましょう。
- ② 質問について、必ず自分で答えを用意し、模範解答や他人の意見と比較しましょう。
- ③ 一つ一つの言葉を大切に読み、本文を根拠とした答えを出すようにしましょう。
- ④ 学習内容として挙げられている事柄について、習得することを目標に積極的に学びましょう。

(2) 家庭学習（予習・復習）について

- ① シラバスを確認し、新しい単元に入る前に必ず本文に目を通し、ノートに本文を書き写し、意味の分からない語句が出てきたら、辞書で調べておきましょう。
- ② 授業の見直しをしっかりとっておきましょう。

(3) その他

- ① 提出物については、指示されている内容を確認し、期日までに必ず提出しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。	まとまりある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	読む能力	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	・朝学習の提出状況 ・長期休業課題の提出 5%	・授業内のプリント 5%	・定期考査 ・確認テスト ・課題テスト 90%
平常点(%)	100%	100%	10%
考査点(%)	0%	0%	90%

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
4	歌物語	『伊勢物語』『渚の院] 1 作品や作者について確認する。 2 内容を理解する。 3 和歌について理解する。 4 重要語、既習の文法を確認する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]和歌の修辞と意味を理解しようとしている。 [知]辞書を積極的に活用している。既習の文法を再確認している。	課題 テスト	7
5	諸家の文章	『昌黎先生文集』『答陳商書] 1 漢文の基礎を確認する。 2 句法を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]筆者の主張を読み取ろうとしている。 [知]語句・句法に注意しながら正しく訓読できる。	中間考査	6
6	歌物語	『大和物語』『いはで思ふ] 1 重要語の意味を調べる。 2 和歌の修辞を確認する。 3 和歌に込められた心情を考える。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]和歌の修辞と意味を理解しようとしている。 [知]和歌の修辞を理解している。		7
7	不思議な世界	『捜神記』『織女] 1 作者の主張や真意を読み取る。 2 論理の展開を的確につかむ。 3 句法を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]筆者の主張を読み取ろうとしている。 [知]語句・句法に注意しながら正しく訓読できる。	期末考査	6
8	歴史物語	『大鏡』『菅原道真の左遷] 1 登場人物の心情を理解する。 2 話の展開をつかむ。 3 助動詞と敬語表現を確認する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]登場人物の心情を考えながら読んでいる。 [知]既習の文法事項の知識を正しく使っている。		7
9					
10	諸家の文章	『経進東 文集事略』『黠鼠賦] 1 正しく訓読や口語訳をする。 2 句法を理解する。 3 作者の主張を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]筆者の主張を読み取ろうとしている。 [知]語句・句法に注意しながら正しく訓読できる。	中間考査	6
11	物語	『とりかへばや物語』『若君の結婚] 1 登場人物について確認する。 2 内容を的確につかむ。 3 敬語表現、和歌を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]登場人物の心情を考えながら読んでいる。 [知]既習の文法事項の知識を正しく使っている。		7
12	不思議な世界	『捜神記』『売鬼] 1 話の面白さを考える。 2 句法を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]話の面白さを味わいながら読んでいる。 [知]語句・句法に注意しながら正しく訓読できる。	期末考査	6
1	物語	『源氏物語』『藤壺の宮との過ち』 「物の怪の出現—葵上の出産」 1 内容を的確につかむ。 2 助動詞と敬語表現を確認する。 3 登場人物の心情を理解する。	[関]内容を理解しようとしている。 [読]登場人物の心情を考えながら読んでいる。 [知]既習の文法事項の知識を正しく使っている。		8
2					
3					
	課題学習	1 年間の学習を通して、古典について、古文や漢文をもとに深く考察する。			4

合計64時間(55分授業)

令和5年度シラバス (国語) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	国語(古典B)	単位数	単位	2単位	学年(コース)	3学年理系
使用教科書	桐原書店 『新 探究古典B』					
副教材等	浜島書店 『常用国語便覧』		数研出版 『体系古典文法 九訂版』			
	尚文出版 『精選漢文』		いっずな書店 『みるみる覚える古文単語300』			

1 学習目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

大学進学希望者が多いことから、
 ④ 古典文法、古語、漢文句法を徹底して学びます。
 ⑤ ①を使って読解ができるようにしていきます。
 ⑥ 当時の人々の生き方や思いに触れ、古典のおもしろさを味わう中で、自分の生き方も考えていきます。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	課題考査 歴史	大鏡 『道長と伊周の競射』	1 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。	1 7	定期考査 授業の取り組み
5	中間考査			1	
6	逸話	説苑 『江南橋為江北枳』	1 比較的短い中に完結性とテーマ性を持つ文章を読んで、漢文への興味と関心を高める。 2 各話から読み取れる教訓や人生の知恵について理解する。	6	定期考査 授業の取り組み
	日記	蜻蛉日記 『嘆きつひとり寝る夜』	1 日記を読んで、記された事柄や作者のものの見方・感じ方を的確に捉える。 2 和歌に込められた登場人物や作者の心情を読み取り、内容把握につなげる。	9	定期考査 授業の取り組み
7	期末考査			1	
8 9	史伝Ⅱ	史記 『璧を完うして趙に帰る』	1 紀伝体の「史記」を読んで、史伝というジャンルへの理解を深める。 2 長文の漢文を正確に訓読し、語句や句形を踏まえて現代語訳する力を養う。	12	定期考査 授業の取り組み
10	中間考査			1	
11	物語	源氏物語 『葵の上と物の怪』	1 長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。 2 「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、物語文学への理解を深める。	13	定期考査 授業の取り組み
12 1 2 3	期末考査 課題学習		1 年間の学習を通して、古典について、古文や漢文をもとに深く考察する。	1 12	

計64時間(55分授業)

4 課題・提出物等

- ・週末課題を今年度も継続し、定期考査の範囲に含めます。
- ・週末課題の提出を定期的に行います。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)			(知識・理解)
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の決まりなどの理解を深め、知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み (授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物の取り組み ・定期考査 ・小テスト などから、総合的に判断します。				

6 担当者からの一言

弱点にしている人が多い古典ですが、基本的な古典文法や漢文句法を徹底して学び、基礎学力を定着していきましょう。そこから、受験にも対応できる力の養成を目指します。読めるようになっていくと、おもしろさにも気づくはず。高校最後の古典を楽しむ気持ちも持ってもらいたいです。

(担当：井上)

令和5年度シラバス (国語) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	国語(古典B)	単位数	単位	3単位	学年(コース)	3学年文系
使用教科書	桐原書店 『新 探究古典B』					
副教材等	浜島書店 『常用国語便覧』		数研出版 『体系古典文法 九訂版』			
	尚文出版 『精選漢文』		いっずな書店 『みるみる覚える古文単語300』			

1 学習目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

大学進学希望者が多いことから、

- ⑦ 古典文法、古語、漢文句法を徹底して学びます。
- ⑧ ①を使って読解ができるようにしていきます。
- ⑨ 当時の人々の生き方や思いに触れ、古典のおもしろさを味わう中で、自分の生き方も考えていきます。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	課題考査 歴史	大鏡 『道長と伊周の競射』	1 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。	1 8	定期考査 授業の取り組み
5	中間考査			1	
6	逸話	説苑 『江南橋為江北枳』	1 比較的短い中に完結性とテーマ性を持つ文章を読んで、漢文への興味と関心を高める。 2 各話から読み取れる教訓や人生の知恵について理解する。	7	定期考査 授業の取り組み
6	日記	蜻蛉日記 『嘆きつつひとり寝る夜』	1 日記を読んで、記された事柄や作者のものの見方・感じ方を的確に捉える。 2 和歌に込められた登場人物や作者の心情を読み取り、内容把握につなげる。	9	定期考査 授業の取り組み
7	期末考査			1	
8	史伝Ⅱ	史記 『璧を完うして趙に帰る』	1 紀伝体の「史記」を読んで、史伝というジャンルへの理解を深める。 2 長文の漢文を正確に訓読し、語句や句形を踏まえて現代語訳する力を養う。	12	定期考査 授業の取り組み
9	物語	源氏物語 『葵の上と物の怪』	1 長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。 2 「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、物語文学への理解を深める。	13	定期考査 授業の取り組み
10	中間考査			1	
11	思想	韓非子 『侵官之害』	1 法家の文章を読んで、思想の概要と諸子百家における位置づけを理解する。 2 それぞれの思想が現代においてどのような意義を持つかを考察する。	7	定期考査 授業の取り組み

12 1 2 3	軍記	平家物語 『先帝入水』	1 軍記物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。 1年間の学習を通して、古典について、古文や漢文をもとに深く考察する。	12	定期考査 授業の取り組み
	期末考査			1	
	課題学習			23	

計96時間 (55分授業)

4 課題・提出物等

- ・週末課題を今年度も継続し、定期考査の範囲に含めます。
- ・週末課題の提出を定期的に行います。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)			(知識・理解)
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の決まりなどの理解を深め、知識を身につけている。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み (授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物の取り組み ・定期考査 ・小テスト <p>などから、総合的に判断します。</p>				

6 担当者からの一言

弱点にしている人が多い古典ですが、基本的な古典文法や漢文句法を徹底して学び、基礎学力を定着していきましょう。そこから、受験にも対応できる力の養成を目指します。読めるようになっていくと、おもしろさにも気づくはず。高校最後の古典を楽しむ気持ちも持ってもらいたいです。

(担当：井上)

令和5年度授業シラバス（日本史探究）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
地歴科	日本史探究	3	3	湧井勇記
科目の目標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って統合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。2学年の日本史Bの学習を深める。			
準教科書	『詳説 日本史』（山川出版社） 『詳説 世界史』（山川出版社）	副教材等	『ゼミナール日本史』（浜島書店） 『新詳日本史』（浜島書店）	

1 学習の目標

- (1) 我が国の歴史・文化・伝統に興味・関心を持ち、全時代的な知識を深める。
- (2) 中央の権力者、貴族による歴史・文化だけでなく、一般庶民や地方の歴史・文化の特徴を理解し、世界の歴史とも関連付けながら、比較することができる能力を培う。
- (3) 世界の中で日本の置かれている状況を、国際社会に生きる日本人として、客観的に見る目を育む。
- (4) 現代日本の特質についての理解を深め、さらに現代世界が直面する課題について広い視野から考察できる力を養う。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ① 教科書で次回の授業範囲に該当する部分を読み、ワークを解いて疑問点をノートにまとめる。
 - ② 副教材『新詳日本史』の図版・写真等で、歴史の概観を掴む。
- (2) 授業について
 - ① 教科書とワークを利用して、既習内容を確認するとともに疑問点を明らかにしその理解を深める。
 - ② 文化史の学習時に、『新詳日本史』の図版・写真等で、該当時代の美術作品の観察学習を行う。
- (3) 復習について
 - ① 授業を受けたその日のうちに授業内容をまとめて、独自の「授業ノート」を作る。
 - ② 授業に併せて『ゼミナール日本史』や『ウイニングコンパス』を解く。
- (4) 家庭学習について
 - ① 各分野を通じて、理解を深め、知識の定着をはかる。
- (5) その他
 - ① 授業規律をしっかりと守ること。（提出期限に遅れた場合は、理由の如何によらず減点とする。）
 - ② 欠席した日の授業内容は、必ず次の時間までに「授業ノート」を作成すること。（コピーは不可）
 - ③ 提出する「授業ノート」は、資料整理力をつけるため、ルーズリーフは禁止とする。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	我が国の歴史の展開から課題を見出し、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断する力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って統合的に理解し、その知識を身に付けている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	15	20	15	50
平常点(%)	100	20	80	20
考查点(%)		80	20	80

※ この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等	時間
4	1 アジアの文化と日本文化 律令国家の形成	文化の始まり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 天平文化 平安王朝の形成 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	2学年の日本史Bとの連続性を持たせながら行う。 【関心・意欲・態度】 各時代について、より一層関心が高まっている。 【思考・判断】 各時代の政治・文化の特色を深く捉えている。	定期考査	18
5	2 ヨーロッパの大航海時代と武家社会	院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場	【技能・表現】 各時代の地図・年表・写真などの資料を的確に用いることができる。 【知識・理解】 各時代を大枠の理解が、深まっている。		
6		3 東南アジアとの交易と幕藩体制	織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕藩体制の安定	全ての時代・分野・観点にわたって、受験に対応出来る力が身についている。	定期考査
7	経済の発展 元禄文化 幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化				
8	4 欧米諸国と近代国家	開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争 日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	定期考査	20	
9		5 文明開化と欧米諸国との交易			占領と改革 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の動揺
10	6 課題学習	1年間の学習をとおして、日本と諸外国との関係を外交を軸に深く考察する。	定期考査	20	
11					12

計96時間（55分授業）

令和5年度授業シラバス（地理探究A）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
地理歴史	地理探究A	3 (文系)	3	
科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
準教科書	『新詳地理B』 帝国書院 『新詳高等地図』 帝国書院	副教材等	『新編 地理資料2022』東京法令出版 データブックオブ・ザ・ワールド 二宮書店 『新詳地理ノート』 帝国書院	

1 学習の目標

- (1) 地理の基礎的な知識、地理的な見方・考え方の習得。
- (2) 大学入学共通テストに対応できる学力の育成。
- (3) 国際的な見方・考え方のできる人材の育成

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①各単元に入る前には確認をしっかりとすると共に、新詳ワークを行うこと。
- ②各単元ごとに、予習テストを行うので、予習テストに向けた取り組みを行うこと。

(2) 授業について

- ①教科書を中心に授業が進められます。基本的な内容や重要ポイントについてまとめていきますが、
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 ㉠ ㉡ ㉢ ㉣ ㉤ ㉥ ㉦ ㉧ ㉨ ㉩ ㉪ ㉫ ㉬ ㉭ ㉮ ㉯ ㉰ ㉱ ㉲ ㉳ ㉴ ㉵ ㉶ ㉷ ㉸ ㉹ ㉺ ㉻ ㉼ ㉽ ㉾ ㉿
- ②各地域・国の位置などを確認したり、グラフなどから様々な関係性を考察する為に、新詳ワーク・地図などを使い、色塗りや調べ学習などの作業を行います。
- ③各単元ごとに、予習テスト、復習テストを行うと共に、大学入学共通テストに向け、対策の問題も行います。

(3) 復習について

- ①各単元ごとに、新詳ノートによる確認を行ってもらいます。
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 ㉠ ㉡ ㉢ ㉣ ㉤ ㉥ ㉦ ㉧ ㉨ ㉩ ㉪ ㉫ ㉬ ㉭ ㉮ ㉯ ㉰ ㉱ ㉲ ㉳ ㉴ ㉵ ㉶ ㉷ ㉸ ㉹ ㉺ ㉻ ㉼ ㉽ ㉾ ㉿
- ②各単元ごとに理解度の確認の為に、確認テストを行います。

(4) 家庭学習について

- ①板書・新詳ノートを自分なりにまとめなおし、理解することが大切です。
- ②継続と反復が必要です。暗記だけでなく、色塗りなどを通し視覚で覚えましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
各単元の学習内容に関して、興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	自然環境の成り立ち、人間生活との関連などを論理的に考えることができる。	各単元の諸資料をそのテーマに則して読み取ることができる。作業学習では適切に地図化、グラフ化等できる。	各単元の学習内容に関する知識と考え方を習得できる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	10	10	70
平常点 (%)	100	80	80	20
考查点 (%)	0	20	20	80

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 学習計画

月	単元	学習内容	考査等	時間
4	2章 現代世界の諸地域 1 東南アジアの研究 2 ラテンアメリカの研究 2章 結びつきを強める現代世界の… 1 現代世界と国家群 2 世界を結ぶ交通・通信 3 現代世界の貿易と経済圏	国家の三要素、国家の形態、国境問題 世界の交通網の地域差、情報化社会 国際分業や貿易の種類、日本の貿易の特徴		2 2 2 2 2
5	1 地図化によって何がわかるか 2 地図化してとらえる南北問題 5章 地域区分でとらえる現代世界 1 地域区分の目的と方法 2 地域区分でとらえる現代世界…	統計地図を用いることのメリット データの地図化による南北問題の理解 地域区分による地域の特色や他地域との比較 アフリカやラテンアメリカの地域区分の事例	中間考査 ノート 提出	2 2 2 2 1
6	第IV部 地球的な課題 1章 人口・食料問題 1 かたよる人口と食料生産 2 さまざまな人口・食料問題 3 世界と比べてみた日本の人口問題 4 人口・食料問題への取り組み 2章 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 さまざまな都市問題 3 日本の都市・居住問題 4 都市・居住問題への取り組み 3章 環境・エネルギー問題 1 世界の環境・エネルギー問題 2 さまざまな環境・エネルギー問題 3 日本の環境・エネルギー問題 4 解決への取り組み	人口分布の偏りと自然環境・産業活動 途上国と先進国の人口・食糧問題 少子高齢化の進展、今日の人口問題 人口維持と食料生産への地球的視野の取組 人口集中によるさまざまな都市問題 途上国と先進国の都市問題 日本の都市・居住問題とその取組 都市の再開発 環境・エネルギー問題の種類、発生地域 熱帯林の破壊、砂漠化、酸性雨 日本の公害対策、環境技術 国連の役割		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
7	4章 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 さまざまな民族・領土問題 3 民族・領土からとらえた日本 4 民族共生へむけての課題	各地の紛争の原因 パレスチナ問題、ユーゴスラビア、クルド人 北方領土問題、国内に住む外国人 多文化共生への取り組み	期末考査 ノート 提出	2 3 3 2 2 1
8	問題演習	問題演習を通しての各項目の復習、及び大学入学共通テスト対策		4
9	1 系統地理 ・自然環境 ・資源と産業			4
10	・都市・村落と生活文化			3
11	2 世界地誌 ・地図と地域を見る方法 ・アジア・アフリカ ・ヨーロッパ ・アメリカ		中間考査	1 4 4 4 4
12	・オセアニア・総合		期末考査	4 1
1	3 世界の諸問題			3
2	・国家・交通・通信・貿易			3
3	・現代世界の諸課題 ・人種・民族・文化		期末考査	3 3 1

合計96時間（55分授業）

令和5年度授業シラバス（地理探究B）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
地理歴史	地理探究B	3 (理系)	2	
科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
準教科書	『新詳地理B』 帝国書院 『新詳高等地図』 帝国書院	副教材等	『新編 地理資料2022』東京法令出版 データブックオブ・ザ・ワールド 二宮書店 『新詳地理ノート』 帝国書院	

1 学習の目標

- (1) 地理の基礎的な知識、地理的な見方・考え方の習得。
- (2) 大学入学共通テストに対応できる学力の育成。
- (3) 国際的な見方・考え方でできる人材の育成

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①各単元に入る前には確認をしっかりと共に、新詳ワークを行うこと。
- ②各単元ごとに、予習テストを行うので、予習テストに向けた取り組みを行うこと。

(2) 授業について

- ①教科書を中心に授業が進められます。基本的な内容や重要ポイントについてまとめて行きますが、
 ① ② ③
 ②各地域・国の位置などを確認したり、グラフなどから様々な関係性を考察する為に、新詳ワーク・
 ② ③
 ③各単元ごとに、予習テスト、復習テストを行うと共に、大学入学共通テストに向け、対策の問題
 も行います。

(3) 復習について

- ①各単元ごとに、新詳ノートによる確認を行ってもらいます。
 ① ②
 ②各単元ごとに理解度の確認の為、確認テストを行います。

(4) 家庭学習について

- ①板書・新詳ノートを自分なりにまとめなおし、理解することが大切です。
- ②継続と反復が必要です。暗記だけでなく、色塗りなどを通し視覚で覚えましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
各単元の学習内容に関して、興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	自然環境の成り立ち、人間生活との関連などを論理的に考えることができる。	各単元の諸資料をそのテーマに則して読み取ることができたか。作業学習では適切に地図化、グラフ化等できる。	各単元の学習内容に関する知識と考え方を習得できる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	10	10	70
平常点 (%)	100	80	80	20
考查点 (%)	0	20	20	80

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 学習計画

月	単元	学習内容	考査等	時間
4	2章 現代世界の諸地域 1 東南アジアの研究 2 ラテンアメリカの研究 2章 結びつきを強める現代世界の… 1 現代世界と国家群 2 世界を結ぶ交通・通信 3 現代世界の貿易と経済圏	国家の三要素、国家の形態、国境問題 世界の交通網の地域差、情報化社会 国際分業や貿易の種類、日本の貿易の特徴		1 1 1 1 1 1
5	1 地図化によって何がわかるか 2 地図化してとらえる南北問題 5章 地域区分でとらえる現代世界 1 地域区分の目的と方法 2 地域区分でとらえる現代世界…	統計地図を用いることのメリット データの地図化による南北問題の理解 地域区分による地域の特色や他地域との比較 アフリカやラテンアメリカの地域区分の事例	中間考査 ノート 提出	1 1 1 1 1
6	第IV部 地球的な課題 1章 人口・食料問題 1 かたよる人口と食料生産 2 さまざまな人口・食料問題 3 世界と比べてみた日本の人口問題 4 人口・食料問題への取り組み 2章 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 さまざまな都市問題 3 日本の都市・居住問題 4 都市・居住問題への取り組み 3章 環境・エネルギー問題 1 世界の環境・エネルギー問題 2 さまざまな環境・エネルギー問題	人口分布の偏りと自然環境・産業活動 途上国と先進国の人口・食糧問題 少子高齢化の進展、今日の人口問題 人口維持と食料生産への地球的視野の取組 人口集中によるさまざまな都市問題 途上国と先進国の都市問題 日本の都市・居住問題とその取組 都市の再開発 環境・エネルギー問題の種類、発生地域 熱帯林の破壊、砂漠化、酸性雨 日本の公害対策、環境技術 国連の役割		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
7	3 日本環境・エネルギー問題 4 解決への取り組み 4章 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 さまざまな民族・領土問題 3 民族・領土からとらえた日本 4 民族共生へむけての課題	各地の紛争の原因 パレスチナ問題、ユーゴスラビア、クルド人 北方領土問題、国内に住む外国人 多文化共生への取り組み	期末考査 ノート 提出	1 2 1 1 1
8	問題演習	問題演習を通しての各項目の復習、及び大学入学共通テスト対策		3
9	1 系統地理 ・自然環境 ・資源と産業			3
10	・都市・村落と生活文化			2
11	2 世界地誌 ・地図と地域を見る方法 ・アジア・アフリカ ・ヨーロッパ ・アメリカ		中間考査	1 3 3 3
12	・オセアニア・総合		期末考査	4 3 1
1	3 世界の諸問題			3
2	・国家・交通・通信・貿易			3
3	・現代世界の諸課題 ・人種・民族・文化		期末考査	2 2

合計64時間（55分授業）

令和5年度授業シラバス（倫理）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
公民	倫理	3	2	
科目の目標	人間が人間自身をどうとらえてきたか、人間と自然や、人間と社会の関係をどう考えてきたかなど、人間のあり方・生き方を先哲の思想に学ぶことにより、自分自身のあり方・社会のあり方について考えを深め、より良い自己形成をはかる。			
使用教科書	「高等学校 新倫理 新訂版」 (清水書院)	副教材等	「テオリア 最新倫理資料集」 (第一学習社) 「新倫理 新訂版 ワークノート」 (清水書院)	

1 学習の目標

- (1) 日常生活の様々な社会的出来事が、倫理思想とどう関連するかを理解する。
- (2) 一面的なもの見方ではなく、広い視野に立って、多面的に理解し、自分の考えを組み立てる。
- (3) 自分の意見を持つと同時に、それを発表する力を養うために毎時間の授業において、先哲の思想について発言を求める。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ① 教科書を読み、次の授業範囲に該当する箇所を把握する。
- ② 分からない理論、用語等について、整理する。

(2) 授業について

- ① 教科書を中心に授業を進めるので、授業の中で単元を理解する。
- ② 資料集を活用し、より理解を深めていく。

(3) 復習について

- ① 「新倫理ワークノート」を活用し、整理ノートを作成する。

(4) 家庭学習について

- ① 「新倫理ワークノート」を活用し、問題演習に挑戦する。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の社会と人間に関心を持ち、人間としての自覚を深めようとしている。	社会事象や人間のあり方について、広い視野で考察・判断し、それを適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけようとしている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	15	20	15	50
平常点(%)	100	20	80	20
考查点(%)	0	80	20	80

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等	時間
4	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成	人間の特質とは何か	第1編 第1章、第2章 ・私たちは、人間としてどう生きていけばよいのかを、意欲的に理解を深めようとしている。【関心】・青年期のまっただなかにいる青年として、何をなすべきかを考察している。【思考】・自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考えることができる。【活用】・生きる意味について、今後の自分の生き方に活かす知識として理解している。【知識】		4
5	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学	神話 ソフィスト ソクラテス プラトン アリストテレス ヘレニズムの思想	第2編 第1章 ・古代ギリシャの思想が私たちにどのような意味を持つのかを探究しようとしている。【関心】・ソクラテスの「無知の知」は、どのようなものか考察している。【思考】・ソクラテスの信念を読み取ることができる。【活用】・アリストテレスの立場をプラトンと対比して理解している。【知識】	定期考査	6
6	第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵	キリスト教 イスラーム 仏教 中国の思想	第2章、第3章 ・キリスト教信仰の構造に関心を持っている。【関心】・イスラームでは宗教が政治と密接な関係にあるのはなぜか、考察している。【思考】・仏陀の視点を読み取ることができる。【活用】・孔子の思想を理解している。【知識】	定期考査	7 4
7 9	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容	日本の風土と伝統 仏教の伝来と隆盛 儒教の日本化 日本文化と国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	第4編 第1章 ・私たちが無意識にしている行動と、日本風土の特性との関わりを持つようとしている。【関心】・仏教と年中行事との関係に着目し多角的に考察している。【思考】・国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところなど、討論できる。【活用】・幕末、明治の思想について、整理して理解している。【知識】		5
10 11	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理	人間の尊厳 自然や科学技術と人間とのかわり 民主社会における人間のあり方 自己実現と幸福	第3編 第1章、第2章 ・現代社会において、人間の尊厳を自覚することの意義について考えようとしている。【関心】・自然と人間の共生をめざす手がかりは何かを、模索しようとしている。【思考】・ホップズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約説の思想の違いを整理できる。【技能】・現代の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。【知識】	定期考査	2 7 11
11 12		個人と社会とのかわり 現代における理性の問題	・社会主義の生まれた背景と、その発展過程、現代の社会主義について、関心を高めようとしている。【関心】・現代思想は、それぞれの特徴があるが、理性に信頼をおく人間像を問い直そうという点で共通していることが考察できる。【思考】 ・フロイトらの著作を読み、現代思想が注目してきたものは何かを理解している。【活用】 ・生命の畏敬などの内容を理解している。【知識】	定期考査	14
1 2 3	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命倫理 第2章 環境倫理 第3章 現代の家族とその課題 第5章 情報社会とその課題		第5編 第1章、第2章、第3章、第5章 ・生命科学や医療技術の発達が人類に何をもたらしてきたのかについて、考えようとしている。【関心】・地球環境問題、環境保護活動、循環型社会をめざす取り組みなどのテーマから、探究したい課題を見だし、公正に判断できる。【思考】 ・探究した結果「問題点を話し合う」、「自分の考えをまとめる」などの方法で、表現できる。【表現】・高度情報社会の諸問題について、自己の課題として理解し、これからは活かす知識として身につけようとしている。【知識】		4

合計64時間（55分授業）

令和5年度授業シラバス（政治・経済）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
公民	政治・経済	3(文・理)	2	
科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題を主体的に考察し、公正な判断力と良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。			
使用教科書	『高校政治・経済 新訂版』 (実教出版株式会社)	副教材等	『最新政治・経済資料集2023』(第一学習社) 「ニューコンパスノート政治・経済(2023年度版)」(とうほう)	

1 学習の目標

- (1) まずは教科書の内容をしっかりと理解すること、基本的事項の知識の蓄積をめざす。
- (2) 様々な事柄の本質・特質を知識としてしっかりと身に付け、実社会で起こる問題との関連を意識させることで、主体的に課題を解決することができる態度を確立させることをめざす。
- (3) 物事を広い視野に立って、多面的・多角的に考察することができる姿勢を確立させることをめざす。
- (4) 問題演習を通して、より多くの知識を定着させることをめざす。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - ①教科書を読み、次の授業範囲に該当する箇所を把握する。
 - ②分からない理論、用語等について、整理する。
- (2) 授業について
 - ①教科書を中心に授業を展開するので、授業の中で単元を理解する。
 - ②資料集を活用し、より理解を深めていく。
- (3) 復習について
 - ①「ニューコンパスノート政治・経済」を活用し、整理ノートを作成する。
- (4) 家庭学習について
 - ①「ニューコンパスノート政治・経済」を活用し、問題演習に取り組む。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
各単元の学習内容のポイントを意識して、授業中の諸活動に意欲や関心をもって取り組むことができる。	政治・経済についての諸課題について、多様な視点から論理的に考えることができる。	各単元の諸資料を様々なメディアを通して主体的に収集、選択して活用すると共に、自分の知識や考えを場面に応じて適切に表現できる。	各単元の学習内容を相互に関係するものとして理解し、政治・経済についての基本的な知識を身に付けようとしている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	15	20	15	50
平常点(%)	100	20	80	20
考查点(%)	0	80	20	80

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査 等	時間
---	----	------	-------	------------	----

4	第1編 現代の政治	政治と法 民主政治と人権保障の発展 国民主権と民主主義の発展	【関心・意欲・態度】 政治・経済の事象について、より一層関心が高まっている。 【思考・判断】 政治・経済の基本的な知識、特色を深く捉えている。 【技能・表現】 政治・経済の主だった出来事について、地図・年表・写真などの資料を的確に活用することができる。 【知識・理解】 政治・経済の基本的な知識、現代の諸課題、諸問題の理解が深まっている。 政治・経済のすべての分野（国内政治、国際政治、日本経済、国際経済）・観点にわたって、受験に対応できる力が身についている。	定期考査	4
5	第1章 民主政治の基本原理	世界の政治体制 日本国憲法の成立 平和主義 基本的人権の保障 人権のひろがり		6	
6	第2章 日本国憲法の基本原理	立法・行政・司法・地方自治 戦後政治の歩み 選挙制度と政党 政治参加と世論		1 2	
7	第3章 日本の政治機構	国際政治の特質と国際法 国際連合と国際協力 現代国際政治の動向 核兵器と軍縮		定期考査	6
8 9	第4章 現代日本の政治	国際紛争と難民 国際政治と日本		1 0	
10	第5章 現代の国際政治	経済社会の意義 経済社会の形成と変容 グローバルと現代資本主義経済		定期考査	1 2
11	第2編 現代の経済	市場機構 現代の企業		8	
12	第1章 経済社会の変容	国民所得と経済成長 金融のしくみ 財政のしくみ		4	
1 2 3	第2章 現代経済のしくみ	戦後復興と経済成長 経済の停滞と再生 日本の中小企業と農業		2	
	第3章 現代経済と福祉の向上	国民の暮らし 環境保全と公害防止 労使関係と労働条件の改善 社会保障の役割			
	第4章 世界経済と日本	商品・資本の流れと国際収支 国際経済体制の変化 金融のグローバル化と世界金融危機 地域経済統合と新興国の台頭 経済協力と人間開発の課題 諸課題の考察 1年間の学習のまとめ			

第3編
現代社会
の諸課題

合計64時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（政治・経済探究）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
公民	政治・経済探究	3文選択	2	
科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、「世界史B」の学習内容を踏まえ、政治・経済、国際関係の背景にある世界の人びとの生活・宗教・考え方を具体的に把握させる。その上で、現代における諸課題について主体的・歴史的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
使用 準教科書	「高校政治・経済 新訂版」 （実教出版株式会社） 「詳説世界史 改訂版」（山川出版社）	副教材等	「最新政治・経済資料集2022」（第一学習社）	

1 学習の目標

- (1) 国民生活に関わる「政治問題」、「環境問題」、「社会保障」、「グローバル化」をテーマに、現代の政治、経済、国際関係の動向や本質を理解させる。
- (2) 諸資料（新聞、書籍等）を適切に選択して、効果的に活用させ、考察を深めさせる。
- (3) 現実の諸課題を主体的に考察させ、自己の考え方を表現する力を身につけさせる。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①教科書を読み、次の授業範囲に該当する箇所を把握する。
- ②分からない理論、用語等について整理する。

(2) 授業について

- ①グループ学習も行うので、積極的に発言し、授業の中で単元をより深めていく。
- ②資料集を活用し、より理解を深めていくだけでなく、関連する資料も活用する。

(3) 復習について

- ①自分の意見をまとめたワークシートを作成する。

(4) 家庭学習について

- ①論述対策として、関連分野の書籍を読み、ストックノートを作成する。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる基本的な事柄や本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	15	20	15	50
平常点 (%)	100	20	80	20
考查点 (%)	0	80	20	80

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考查等	時間	
4	1 日本の政治機構とその課題	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成り立ち 地方自治 	<p>【関心・意欲・態度】 政治・経済の事象について、より一層関心が高まっている。</p> <p>【思考・判断】 政治・経済の基本的な知識、特色を深く捉えている。</p> <p>【技能・表現】 政治・経済の主だった出来事について、地図・年表・写真などの資料を的確に活用することができる。</p> <p>【知識・理解】 政治・経済の基本的な知識、現代の諸課題、諸問題の理解が深まっている。</p>	定期考查	14	
5		<ul style="list-style-type: none"> 消費者の自己責任 環境問題とその対策 			14	
6		<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に基づき、大量生産・大量消費などの産業構造、社会生活の変化とそれに伴う諸課題について学ぶ。豊かな暮らしと環境問題との関わりを世界の歴史と関連づけ、グループ学習等により考察する。 			定期考查	14
7		<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化社会と社会保障 			14	
8		<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に基づき、少子高齢化社会の問題と社会保障の現状、諸課題について学ぶ。少子化、高齢化と地方再生について世界の歴史と関連づけ、グループ学習等により考察する。 			定期考查	14
9	3 少子高齢化社会と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 世界の食糧事情 日本の農業 資源・エネルギー問題 	<p>政治・経済のすべての分野（国内政治、国際政治、日本経済、国際経済） ・観点到にわたって、受験に対応できる力が身につけている。</p>	定期考查	14	
10		<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に基づき、グローバル化が進展する現代経済の現状と諸課題について学ぶ。食糧事情と農業、資源について世界の歴史と関連づけ、グループ学習等により考察する。 			14	
11		<ul style="list-style-type: none"> 国際経済と地域的経済統合 			定期考查	8
12	4 現代経済のしくみとグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に基づき、グローバル化が進展する国際経済の現状と課題について学ぶ。地域的経済統合について世界の歴史と関連づけ、グループ学習等により考察する。 				
1	5 国際経済と日本					
2						
3						

合計64時間（55分授業）

令和5年度授業シラバス（数学Ⅲ）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学Ⅲ	3	5	
科目の目標	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。			
使用教科書	改訂版 新編 数学Ⅲ（数研出版）	副教材等	改訂版 3TRIAL 数学Ⅲ（数研出版） 改訂版 3TRIAL 数学Ⅲ 解答編（数研出版） 数学Ⅲ 重要事項完全習得編（河合出版）	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め，事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに，課題を総合的かつ多面的に考察することをおして，思考力・判断力・表現力を高め，それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み，練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や，板書を利用して，考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず，必ずその日のうちに質問し，疑問を解決する。
- ③グループ活動では，全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に，復習を行い授業の内容をしっかりと理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより，自分の苦手分野・単元を把握し，その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き，理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても，練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは，遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
理論や体系に関心をもつとともに，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念や原理，法則，および用語や記号などを体系的に理解し，知識を身に付けている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

*この割合は年間を通した目安で，学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等	時間
---	----	------	-------	-----	----

1 学 期	第1章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	<ul style="list-style-type: none"> 複素数平面の定義を理解し、和・差・実数倍の図形的な意味を理解している。 極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ド・モアブルの定理について理解している。 複素数平面上で円や直線などの図形の性質を、複素数を利用して考察できる。 	課題 考查	50	
	第2章 式と曲線	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	<ul style="list-style-type: none"> 放物線、楕円、双曲線の定義と方程式の標準形について理解している。 平行移動した2次曲線の方程式を求めることができる。 2次曲線と直線の位置関係について理解している。 図形の媒介変数表示について理解している。 極座標と極方程式について理解している。 分数関数や無理関数について理解している。 逆関数、合成関数について理解している。 			中間 考查
	第3章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	<ul style="list-style-type: none"> 数列の収束・発散について理解している。 数列の極限の性質について理解している。 			
	第4章 極限	第1節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比級数 3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	<ul style="list-style-type: none"> 無限級数の性質について理解している。 関数の極限の性質について理解している。 三角関数の極限について理解している。 関数の連続性について理解している。 中間値の定理について理解している。 	期末 考查		
	第5章 微分法	第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	<ul style="list-style-type: none"> 合成関数の微分法、逆関数の微分法について、理解している。 三角関数の導関数を理解している。 自然対数eの定義と対数関数の導関数を理解している。 指数関数の導関数を理解している。 第n次導関数について理解している。 媒介変数表示に関する微分法を理解している。 曲線の接線や法線が求められる。 平均値の定理を理解している。 関数の増減、極値、凹凸、変曲点、漸近線などを調べ、グラフを書くことができる 不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を求めたりすることができる。 速度、加速度について理解している。 近似式について理解している。 不定積分を理解している。 置換積分法や部分積分法を理解している。 			中間 考查
	第6章 微分法の応用	第1節 導関数の応用 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似値	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数の不定積分を理解している。 定積分の基本性質を理解している。 			
	2 学 期	第7章 積分法とその応用	第1節 不定積分 1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題 第3節 積分法の応用 7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ 総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の置換積分法や部分積分法を理解している。 区分求積法定積分の関係を理解している。 定積分を用いて図形の面積・立体の体積・回転体の体積・曲線の長さを求めることができる。 		期末 考查
3				45		

学期

--	--	--	--	--	--

合計160時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（数学総合I）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学総合I	3	3	
科目の目標	数学I Aの基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
使用 準教科書	改訂版 新編 数学I (数研出版) 改訂版 新編 数学A (数研出版)	副教材等	改訂版リンク数学演習I・A+II・B受験編 (数研出版) 共通テスト対策【実力養成】数学I・A 30分演習【改訂版】	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み、練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や、板書を利用して、考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず、必ずその日のうちに質問し、疑問を解決する。
- ③グループ活動では、全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に、復習を行い授業の内容をしっかりと理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより、自分の苦手分野・単元を把握し、その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き、理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても、練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは、遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・習得した知識や技能を活用し、課題を解決しようとしている。 ・数学的論拠に基づいて判断している。	・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を捉え、多面的に考察している。	・事象を数学的に考察することができる。 ・数学的に表現し処理する仕方を身に付けている。	・数学における概念や原理、法則、および用語や記号などが体系的に理解することができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
1 学 期	数と式(I)	[基礎事項の確認] 式の展開, 因数分解 式の計算 集合, 命題の真偽	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して, 方程式や不等式, 関数や図形における考え方に関心をもち, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, 問題解決に生かそうとしている。 ・既習内容の理解をさらに深めることができる。 ・既習事項を総合的に復習することにより, 問題解決への多面的な活用ができる。 	課題考査	30
	2次関数(I)	2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小		中間考査	
	図形と計量(I)	2次方程式, 不等式 正弦定理, 余弦定理 空間図形		期末考査	
	データの分析(I)	散らばりと四分位数 分散と標準偏差 相関係数			
	場合の数と確率(A)	順列, 組合せ 反復試行の確率 条件付き確率			
	図形の性質(A)	チェバの定理, メネラウスの定理 円に内接する四角形			
	整数の性質(A)	約数と倍数 1次不定方程式 n進法			
2 学 期	数学 I A総演習	[発展学習] ・大学入学共通テストに頻出するタイプの問題を分野別に基礎から応用まで体系的に演習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習分野の知識を要する問題及びそれらを組み合わせた問題を解く際に, 既習内容が自在に活用できる。 ・大学入学共通テストに対応できる計算力を身に付けている。 ・1年間の学習内容を相互に関連付けた課題に対して, それらを深く考察することで, 数学のよさを認識できる。 	中間考査	40
	探究課題	[課題学習] ・他の単元との関連について考え, さまざまな別解を考えることで総合的かつ多角的に課題を扱う。		期末考査	
3 学 期					26

令和5年度授業シラバス(数学総合Ⅱ)

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学総合Ⅱ	3	2	
科目の目標	数学ⅡBの基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、総合的な問題演習を行う。また、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを活用する態度を育てる。			
使用 準教科書	改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版) 改訂版 新編 数学B (数研出版)	副教材等	改訂版リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 (数研出版) 共通テスト対策【実力養成】数学Ⅱ・B30分演習【改訂版】	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み、練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や、板書を利用して、考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず、必ずその日のうちに質問し、疑問を解決する。
- ③グループ活動では、全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に、復習を行い授業の内容をしっかり理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより、自分の苦手分野・単元を把握し、その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き、理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても、練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは、遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・習得した知識や技能を活用し、課題を解決しようとしている。 ・数学的論拠に基づいて判断している。	・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を捉え、多面的に考察している。	・事象を数学的に考察することができる。 ・数学的に表現し処理する仕方を身に付けている。	・数学における概念や原理、法則、および用語や記号などが体系的に理解することができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
---	----	------	-------	--------	----

1 学 期	式と証明(Ⅱ)	[基礎事項の確認] 整式の割り算, 恒等式, 等式・不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して, 方程式や不等式, 関数や図形における考え方に興味をもち, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, 問題解決に生かそうとしている。 ・既習内容の理解をさらに深めることができる。 ・既習事項を総合的に復習することにより, 問題解決への多面的な活用ができる。 	課題考査	22
	複素数と方程式(Ⅱ)	解と係数の関係, 剰余の定理, 因数定理, 高次方程式		中間考査	
	図形と方程式(Ⅱ)	点と直線, 円の方程式, 軌跡, 領域		期末考査	
	三角関数(Ⅱ)	弧度法, 加法定理			
	指数関数と対数関数(Ⅱ)	指数の拡張, 対数とその性質			
	微分法と積分法(Ⅱ)	導関数, 接線の方程式, 関数の最大・最小, 方程式・不等式への応用, 不定積分, 定積分, 面積			
	ベクトル(B)	ベクトルの基本 内積 位置ベクトル 座標空間における図形			
2 学 期	数列(B)	等差数列 等比数列 いろいろな数列 漸化式と数列 数学的帰納法	中間考査	26	
	数学ⅡB総演習	[発展学習] ・大学入学共通テストに頻出するタイプの問題を分野別に基礎から応用まで体系的に演習する。	期末考査		
3 学 期	探究課題	[課題学習] ・他の単元との関連について考え, さまざまな別解を考えることで総合的かつ多角的に課題を扱う。		16	

			して、それらを深く考察することで、数学のよさを認識できる。		
--	--	--	-------------------------------	--	--

合計64時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（数学探究Ⅰ）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学探究Ⅰ	3	3	
科目の目標	数学ⅠAの基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
使用 準教科書	改訂版 新編 数学Ⅰ（数研出版） 改訂版 新編 数学A（数研出版）	副教材等	改訂版リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編（数研出版） 共通テスト対策【実力養成】数学Ⅰ・A 30分演習【改訂版】（ラーズ）	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み、練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や、板書を利用して、考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず、必ずその日のうちに質問し、疑問を解決する。
- ③グループ活動では、全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に、復習を行い授業の内容をしっかりと理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより、自分の苦手分野・単元を把握し、その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き、理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても、練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは、遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・習得した知識や技能を活用し、課題を解決しようとしている。 ・数学的論拠に基づいて判断している。	・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を捉え、多面的に考察している。	・事象を数学的に考察することができる。 ・数学的に表現し処理する仕方を身に付けている。	・数学における概念や原理、法則、および用語や記号などが体系的に理解することができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
1 学 期	数と式(I)	[基礎事項の確認] 式の展開, 因数分解 式の計算 集合, 命題の真偽	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して, 方程式や不等式, 関数や図形における考え方に関心をもち, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, 問題解決に生かそうとしている。 ・既習内容の理解をさらに深めることができる。 ・既習事項を総合的に復習することにより, 問題解決への多面的な活用ができる。 	課題考査	30
	2次関数(I)	2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小		中間考査	
	図形と計量(I)	2次方程式, 不等式 正弦定理, 余弦定理 空間図形		期末考査	
	データの分析(I)	散らばりと四分位数 分散と標準偏差 相関係数			
	場合の数と確率(A)	順列, 組合せ 反復試行の確率 条件付き確率			
	図形の性質(A)	チェバの定理, メネラウスの定理 円に内接する四角形			
	整数の性質(A)	約数と倍数 1次不定方程式 n進法			
2 学 期	数学 I A総演習	[発展学習] ・大学入学共通テストに頻出するタイプの問題を分野別に基礎から応用まで体系的に演習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習分野の知識を要する問題及びそれらを組み合わせた問題を解く際に, 既習内容が自在に活用できる。 ・大学入学共通テストに対応できる計算力を身に付けている。 ・1年間の学習内容を相互に関連付けた課題を取り扱い, それらを深く考察することで, 数学のよさを認識できる。 	中間考査	40
	探究課題	[課題学習] ・他の単元との関連について考え, さまざまな別解を考えることで総合的かつ多角的に課題を扱う。		期末考査	
3 学 期					26

令和5年度授業シラバス(数学探究Ⅱ)

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学探究Ⅱ	3	3	
科目の目標	数学ⅡBの基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、総合的な問題演習を行う。また、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを活用する態度を育てる。			
使用 準教科書	改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版) 改訂版 新編 数学B (数研出版)	副教材等	改訂版リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 (数研出版) 共通テスト対策【実力養成】数学Ⅱ・B30分演習【改訂版】(ラーンス)	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み、練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や、板書を利用して、考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず、必ずその日のうちに質問し、疑問を解決する。
- ③グループ活動では、全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に、復習を行い授業の内容をしっかりと理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより、自分の苦手分野・単元を把握し、その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き、理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても、練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは、遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・習得した知識や技能を活用し、課題を解決しようとしている。 ・数学的論拠に基づいて判断している。	・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を捉え、多面的に考察している。	・事象を数学的に考察することができる。 ・数学的に表現し処理する仕方を身に付けている。	・数学における概念や原理、法則、および用語や記号などが体系的に理解することができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
---	----	------	-------	--------	----

1 学 期	式と証明(Ⅱ)	[基礎事項の確認] 整式の割り算, 恒等式, 等式・不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して, 方程式や不等式, 関数や図形における考え方に興味をもち, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, 問題解決に生かそうとしている。 ・既習内容の理解をさらに深めることができる。 ・既習事項を総合的に復習することにより, 問題解決への多面的な活用ができる。 	課題考査	30
	複素数と方程式(Ⅱ)	解と係数の関係, 剰余の定理, 因数定理, 高次方程式		中間考査	
	図形と方程式(Ⅱ)	点と直線, 円の方程式, 軌跡, 領域		期末考査	
	三角関数(Ⅱ)	弧度法, 加法定理			
	指数関数と対数関数(Ⅱ)	指数の拡張, 対数とその性質			
	微分法と積分法(Ⅱ)	導関数, 接線の方程式, 関数の最大・最小, 方程式・不等式への応用, 不定積分, 定積分, 面積			
	ベクトル(B)	ベクトルの基本 内積 位置ベクトル 座標空間における図形			
2 学 期	数列(B)	等差数列 等比数列 いろいろな数列 漸化式と数列 数学的帰納法	中間考査	40	
	数学ⅡB総演習	[発展学習] ・大学入学共通テストに頻出するタイプの問題を分野別に基礎から応用まで体系的に演習する。	期末考査		
3 学 期	探究課題	[課題学習] ・他の単元との関連について考え, さまざまな別解を考えることで総合的かつ多角的に課題を扱う。		26	

			り扱い, それらを深く考察 することで, 数学のよさを 認識できる。		
--	--	--	--	--	--

合計96時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（数学探究Ⅲ）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
数 学	数学探究Ⅲ	3	3	
科目の目標	数学ⅠAⅡBの基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、総合的な問題演習を行う。また、数学のよさを認識できるようにするとともにそれらを活用する態度を育てる。			
使用 準教科書	改訂版 新編 数学Ⅰ（数研出版） 改訂版 新編 数学A（数研出版） 改訂版 新編 数学Ⅱ（数研出版） 改訂版 新編 数学B（数研出版）	副教材等	改訂版リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編（数研出版） 共通テスト対策【実力養成】数学Ⅰ・A 30分演習【改訂版】（ラーズ） 共通テスト対策【実力養成】数学Ⅱ・B 30分演習【改訂版】（ラーズ）	

1 学習の目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。

2 学習の方法

(1) 予習について

次時の授業で行う範囲の例題を読み、練習問題に目を通す。出来れば解いてから授業に臨む。

(2) 授業について

- ①授業中の教員の解説や、板書を利用して、考え方や解き方を理解しながら授業に取り組む。
- ②わからない問題はそのままにせず、必ずその日のうちに質問し、疑問を解決する。
- ③グループ活動では、全体の理解が進むよう積極的に協力して活動する。
- ④定期考査とは別に課題考査を設けることもある。学習の理解・定着のため積極的に取り組むこと。

(3) 復習について

- ①授業だけでは学力は伸びない。家庭学習習慣を定着させること。毎週の課題を中心に、復習を行い授業の内容をしっかりと理解すること。
- ②確認小テスト・定期考査・模擬試験などにより、自分の苦手分野・単元を把握し、その克服に努める。

(4) 家庭学習について

その日習った授業範囲の例題をもう一度解き、理解の把握に努める。

(5) その他

人は理解が出来てわかったと思っても、練習をしないとすぐに忘れてしまう。授業で学習したことを定着させるのは家庭学習以外にありません。わからなかったところは、遠慮なく先生に質問をして問題解決をしてください。小さな積み重ねが大きな力となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
・習得した知識や技能を活用し、課題を解決しようとしている。 ・数学的論拠に基づいて判断している。	・課題を多様な単元や分野と関連させ、総合的に事象を捉え、多面的に考察している。	・事象を数学的に考察することができる。 ・数学的に表現し処理する仕方を身に付けている。	・数学における概念や原理、法則、および用語や記号などが体系的に理解することができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	20	30	30
平常点(%)	100	10	10	10
考査点(%)	0	90	90	90

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・考査等	時間
---	----	------	-------	--------	----

1 学 期	数と式	[基礎事項の確認] 式の展開, 因数分解, 式の計算, 集合命題	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して, 方程式や不等式, 関数や図形における考え方に興味をもち, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, 問題解決に生かそうとしている。 ・既習内容の理解をさらに深めることができる。 ・既習事項を総合的に復習することにより, 問題解決への多面的な活用ができる。 	課題考査	30
	2次関数	グラフ, 最大・最小 2次方程式, 2次不等式		中間考査	
	図形と計量	正弦定理, 余弦定理 空間図形		中間考査	
	データの分析	四分位数, 分散と標準偏差 相関係数		中間考査	
	場合の数と確率	順列, 組合せ, 反復試行 条件付き確率		中間考査	
	図形の性質	チェバ・メネラウスの定理 円に内接する四角形		中間考査	
	整数の性質	約数と倍数 1次不定方程式		中間考査	
	式と証明	整式の割り算, 恒等式 等式・不等式の証明		中間考査	
2 学 期	複素数と方程式	複素数, 解と係数の関係 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに 対応できる計算力を身に 付けている。 ・1年間の学習内容を相互 に関連付けた課題を取り 扱い, それらを深く考察す ることで, 数学のよさを認 識できる。 	期末考査	40
	図形と方程式	点と直線, 円の方程式, 軌跡, 領域		期末考査	
	三角関数	弧度法, 加法定理		期末考査	
	指数関数と対数関 数	指数関数, 対数関数		期末考査	
	微分法と積分法	導関数, 接線の方程式 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 不定積分, 定積分, 面積		中間考査	
	ベクトル	ベクトルの基本, 内積 位置ベクトル 空間における図形		中間考査	
	数列	等差数列, 等比数列 いろいろな数列 漸化式, 数学的帰納法		中間考査	
	総合演習	[発展学習] ・大学入学共通テストに頻出 するタイプの問題を分野別に基礎 から応用まで体系的に演習す る。		中間考査	
探究課題	[課題学習] ・他の単元との関連につ いて考え, さまざまな別 解を考えることで総合的 かつ多角的に課題を扱 う。	期末考査			
3 学 期				26	

合計96時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（物理）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
理 科	物 理	3	4	
科目の目標	物理的な事象に対する探究心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則を用いて具体的な事象にあたり、物理的理解を深めるとともに、科学的な自然観を育成する。			
使用教科書	数研出版 改訂版 物理	副教材等	数研出版 リードα 物理 河合出版 物理のエッセンス 力学・波動 河合出版 物理のエッセンス 熱・電磁気・原子	

1 学習の目標

- (1) 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。
- (2) 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。
- (3) 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。
- (4) 科学技術の在り方やエネルギー問題について市民が意思決定するために必要となる、科学的な知識、能力、態度を身につける。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ① 家庭において授業で学ぶ内容を予め教科書で確認し、基本事項を抑えるだけでなく、関連した練習問題を解いておく。
- ② さらに3学年では模試や入試に備えるため、教科書の内容を早めに消化し、常日頃から発展問題が解けるだけの実力の養成に努めることが大切である。そのためには予習必須である。

(2) 授業について

- ① 日常生活と物理の関連について学習し、物理を学んでいく上での動機付けを行う。
- ② 教科書の他に授業プリントを使用して基本的な問題に当たり、繰り返し解くことで解き方をしっかり定着し、物理の学習を進めていく。その際、公式以上に図を用いて解く習慣を身につけること。
- ③ 観察・実験を行い、物理現象と法則との関連を提示する。(時間の関係で部分的に省略することもある。)
- ④ 授業中にわからない箇所があれば、授業時間中あるいは下校までに先生に聞くなりして解決しておく。

(3) 復習について

授業中は「わかった」「憶えた」と思っても、時間が経てば、理解していない内容は忘れてしまうもの。その日のうちに見直すことが重要。復習は効率の良い勉強法であるから念入りに行うこと。

- ① 授業プリントの見直し：書かれた内容を見直し、曖昧な箇所があれば、教科書等で確認をする。また、公式等は自分なりに導出し、再構成してみると理解が深まる。
- ② 問題演習：解けたと思った問題でも、単に形式的に解いていた場合もままある。本当に理解をしていたのかどうか、さらに「リードα」等の応用問題にあたり確認してみる事が大切。「わかったつもり」で終わらせないことが大切。

(4) 家庭学習について

- ① 授業で学んだことを、反復し、学習を定着させることは、予・復習と併せて重要である。
- ② 予習（家庭）→授業→復習（家庭）のサイクルを中心とした生活リズムの構築を行うこと。
- ③ 普段から、物理的な事象・現象の不思議さに興味・関心を持つよう心がけること。
- ④ 模試等の過去問を解き、実践力を身につけることも大切である。

(5) その他

物理を学ぶにあたって、問題演習（問題を解くこと）の持つ意味は大きい。ただし、問題演習が大切であるといっても、やり方を間違えると、時間の無駄づかいになりかねない。問題演習にあたっては次の点に留意すること。

- (1) 自分の力で解く。(2) 必要な公式は、図の活用等を通してその都度憶える。
- (3) 解答・解説をよく読み、自分の理解が正しいか確認をする。

3. 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象（とくに物理的な）に対して興味・関心を高めている。 ・意欲的に課題を追求する態度を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し判断している。 ・課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法を用いている。 ・課題を遂行するために必要な情報を適切に収集できる。 ・実験器具を調達し、あるいは工夫して自作できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できる。 ・得た知識や理解したことを、その後の学習や生活の中で応用できる。

(2) 評価の方法

評価の観点	① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 観察・実験の技能	④ 知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	30	10	50
平常点 (%)	100	10	10	10
考查点 (%)	0	90	90	90

※ この割合は年間を通した目安で、学期・単元によって異なることがある。

4. 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	時数
4	第3編 波 第3章 光	1. 光の性質	<p>【知識・理解】・光は電磁波の一種であり、真空中の速さは $3.0 \times 10^8 \text{ m/s}$ であることをフーコーの実験から導くことができる。</p> <p>・光にも反射・屈折の法則が成り立つことを理解させ、みかけの深さや全反射について、その機構をしっかりと理解できる。</p> <p>・空の青さを光の散乱現象で説明し、また偏向についても定性的に理解できる。</p> <p>・凸レンズ・凹レンズの写像公式を説明し、レーザー光線をレンズにあててレンズの作る像を通して理解できる。</p>	春期課題 考查	8
5		2. レンズ	<p>【思考・判断】・光の反射・屈折は光を波と考える「ホイヘンスの原理」で無理なく説明できるが、光の粒子説では屈折の現象が理論と実験でくい違ふことが歴史的な経緯から理解できる。</p>		8
		3. 光の干渉と回折	<p>【観察・実験の技能】・白色光の分散や連続スペクトルや線スペクトルなどを観察できる。また偏光板による反射光の除去についても定性的に理解できる。</p> <p>【知識・理解】・回折格子とヤングの実験との同じ点、異なる点を理解し、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できる。</p>		1学期 中間 考查
7	第4編 電気と磁気 第1章 電場	1. 静電気力	<p>・電子と陽子の電気量の大きさは等しく、「電気素量」ということ、また帯電体どうしだけで電気量のやりとりをするとき「電気量保存の法則」が成り立つことを理解できる。</p>	1学期 期末 考查	8
		2. 電場	<p>・電荷 Q の帯電体から出る電気力線の総数が $4\pi kQ$ 本であることを理解できる。</p> <p>【思考・判断】・2つの電荷間に働く静電気力は、「クーロンの法則」によって表されることを理解しており、この法則を用いて具体的に帯電体同士に働く力を求めることができる。</p> <p>・電場の定義を正しく理解し、単独あるいは複数の(正や負の)電荷が固定されて置いてあるとき、これらの付近の電場の向きと強さを表すことができる。</p> <p>・単独あるいは複数の(正や負の)電荷が固定されて置いてあるとき、これらの周りの電場と電位のように電磁力線と等電位面を用いて表すことができる。</p> <p>【観察・実験の技能】・プリントに電気力線を描くことができる。</p>		8
		3. 電位			
		4. 物質と電場	<p>【知識・理解】・外部から電気力線を加えても、導体の内部には電気力線が入りこめない理由(静電遮蔽)を理解できる。</p>		8
		5. コンデンサー	<p>・コンデンサーの直列接続、並列接続の公式を理解している。</p> <p>【思考・判断】・帯電体を近づけると、導体と不導体は帯電体に引き寄せられる。この理由を理解している。</p> <p>・平行版コンデンサーの充電のメカニズムやそのエネルギーを説明することができる。</p> <p>【観察・実験の技能】・箔検電器を用いて平行板コンデンサーの電気容量の大きさはどのように変わるのか実験して確かめることができる。</p>		8
7	第2章 電流	1. オームの法則	<p>【知識・理解】・電流 $I = emvS$ であることを用いて自由電子の平均移動速度 v を求めることができる。</p> <p>・キルヒホッフの法則を正しく理解し、各種の回路計算を行うことができる。</p> <p>・p型半導体、n型半導体やダイオードやトランジスタのしくみと働きを理解している。</p>	夏期課題 考查	6
		2. 直流回路	<p>【思考・判断】・電流や電気抵抗の意味を正しく理解し、オームの法則や電力、電気量、ジュール熱の式を導くことが出来る。またこれらの式を正しく適用することができる。</p> <p>・電流計や電圧計の測定範囲を大きくするにはどうしたらよいか理解している。</p>		6
		3. 半導体	<p>・半導体のキャリアを理解し、真性半導体と不純物半導体の性質の違いを判断できる。</p>		
9	第3章 電流と磁場	1. 磁場	<p>【知識・理解】・磁気量について、磁気力に関するクーロンの法則を理解している。</p> <p>・直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場についての公式を使うことができる。</p> <p>・「透磁率」、「比透磁率」、「磁束密度」、「磁束」の意味を理解している。</p>		6
		2. 電流のつくる磁場	<p>・平行電流が及ぼすあう力について、定性的・定量的に理解している。</p> <p>・ローレンツ力を応用した「ホール効果」についての原理を理解している。</p>		5

		3.電流が磁場から受ける力 4.ローレンツ力	<p>【思考・判断】・直線電流がつくる磁場の様子を理解した後、円形電流がどのような磁場をつくるのか予想できる。</p> <p>・フレミングの左手の法則から、電流の流れている導線がどの向きに力を受けるか判断できる。</p> <p>・磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようになるか判断できる。</p>		5
10	第4章 電磁誘導と電磁波	1.電磁誘導の法則 2.交流の発生 3.自己誘導と相互誘導 4.交流回路 5.電磁波	<p>【知識・理解】・磁場を横切る導線に生じる誘導起電力の向きと大きさができる。</p> <p>・交流電圧の公式を理解している。交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解している。</p> <p>・コイルに蓄えられたエネルギーを表す式が導き出される過程を説明することができる。</p> <p>・コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。また、電気振動におけるコイルの磁場とコンデンサーの電場の変化のようすを説明できる。</p> <p>・電磁波の発生のしくみや波長によるふりまが理解できている。</p> <p>【思考・判断】・電磁誘導の法則を用いて誘導起電力の大きさを求めることができる。また、レンツの法則を用いて誘導起電力の向きを判断することができる。</p> <p>・回転するコイルにどのような向きの誘導起電力が生じるかを思考・判断できる。</p> <p>・自己誘導起電力の大きさ、および相互誘導起電力を表す式を、ともにファラデーの電磁誘導の法則の式から説明することができる。</p> <p>【観察・実験の技法】・オシロスコープを用いて交流電圧の波形を観察することができる。</p>	2学期 中間考査	6 6 3
11	第5編 原子 第1章 電子と光	1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性	<p>【知識・理解】・電子の比電荷の値と電気素量より、電子の質量が $9.11 \times 10^{-31} \text{kg}$ であることを算出することができる。</p> <p>・マイクロなエネルギー量を表現するときに用いる「電子ボルト」という単位の意味を理解している。</p> <p>・X線回折におけるブラッグの条件について理解している。</p> <p>・質量をもった粒子がある速さで運動しているとき、この物質波のドブロイ波長を求めることができる</p> <p>【思考・判断】・陰極線の正体が電子線であったことの歴史的過程が理解できる。</p> <p>・電子の比電荷を求めた J.J.トムソンの実験のしくみが理解できている。</p> <p>・光電効果の実験結果を、光子説により説明できる。</p> <p>・X線の発生機構が理解できる。</p> <p>・発生する最短波長を導き出す過程が説明できる。</p>		3 3 3 3
12	第5編 原子 電子と光 第2章 原子と原子	1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子	<p>【知識・理解】・原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解している。</p> <p>・「原子・原子核」を表す記号から、原子核を構成する陽子・中性子の数を求めることができる。また、複数の同位体からなる元素の原子量を計算できる。</p> <p>・放射能と放射線の測定単位の定義を理解している。</p> <p>【思考・判断】・ラザフォードによる α 粒子の散乱実験から、原子が原子核と電子とからなることが理解できる。</p> <p>・極小の物体からなる核子どうしが強く結びついていることについて、万有引力や電磁気力では説明できない理由を説明できる。</p> <p>・α 線、β 線、γ 線の正体や、α 崩壊、β 崩壊のしくみが理解できている。</p> <p>【観察・実験の技法】・さまざまなスペクトルを観察できる。</p> <p>【知識・理解】・核反応を式で表すことができる。</p> <p>・核分裂反応・核融合反応について定性的・定量的に理解している。</p> <p>【思考・判断】・核反応の前後で原子核の質量が減少すること、およびその質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして解放されることを定量的に説明できる。</p> <p>【知識・理解】・さまざまなハドロンがどのクォークで構成されているかを調べ、それらの電気量の値をクォークの種類より算出できる。</p> <p>【思考・判断】・素粒子はそれが働く力の種類により、どのような種類に分類されるのか、クォークとは何か、ゲージ粒子とは何か、また自然界に存在する4つの力とは何か、などを説明できる。</p>	2学期 期末考査	4
1	課題学習	物理全体の学習を通じて、各種の演習問題を解くことで、より深い理解を得る。	<p>【思考・判断力・表現力】</p> <p>物理法則を深く理解し、自然現象を物理的に考察できる。</p> <p>また、数式で表現できる内容かどうかを判断し、できる場合は的確に表して、事物現象を考察できる。</p>		4
2					
3					

					9
--	--	--	--	--	---

合計 128 時間(55 分授業)

◇課題・提出物等

- ・学期毎に授業プリントを閉じたファイルを提出する。
- ・実験にはレポートの提出を義務づける。
- ・朝学習や週末課題等の提出

◇評価基準と評価の方法

- ・基本的に3の「評価の方法」による。
- ・各定期考査・課題テスト及び提出された課題の内容, および小テスト等を勘案して判定する。
尚, 提出物が不備の場合は減点となる。
- ・上記の評価に加え, 生徒の意欲・態度、理解度および実験の取り組み等に留意して評価をする。

教科(科目)	理科 (化学)	単位数	単位	5単位	学年(コース)	3学年 (理系)
使用教科書	東京書籍 改訂 化学 (化学301)					
副教材等	・第一学習社 セミナー化学基礎+化学		・数研出版 フォローアップドリル			
	・数研出版 フォトサイエンス化学図録		・数研出版 チェック&演習 化学			

1 学習目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

- (1) 化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できるとともに日常生活や社会と関連づけて考察できることを目指します。
- (2) 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できることを目指します。
- (3) 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できることを目指します。

3 学習計画

次ページに示します。

4 課題・提出物等

ドリル、課題プリント、実験レポートの提出を課します。また、小単元ごとに課題確認テストを実施します。教科の特性上、既習の内容を踏まえて更に発展させていくので、重要なのは授業の復習になります。既習の内容が理解できているという前提で授業が展開されるので、復習が必要になります。したがって家庭学習においては、副教材等を授業の進捗に合わせながら、その都度学習していくことが必要になります。さらに、教材の図や表に注目し、視覚的にも理解を深めると効果的です。また、2学年で学習した基礎分野を十分理解しておく必要があります。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つことができる。 授業で得た結果を基に、発展的な興味をもって自主的活動を行うことができる。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事物を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 授業内容について科学的な捉え方ができる。 授業の成果を活かして社会や生活との関連を考えることができる。 発展的な内容についても思考を展開することができる。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 操作の意味をよく理解し、実技を的確に行うことができる。 実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけている。 学んだ内容が関連づけて整理され定着している。 知識を用いて発展的な応用ができる。

以上の観点を踏まえ、
 ・授業の取り組み (授業態度、発表の様子、学習活動への参加状況など)
 ・提出物 (ドリル、課題プリント、実験レポート) の内容
 ・テスト (定期考査、小単元ごとに行う課題確認テストなど)
 などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

正しい知識、深く柔軟な思考力、速く正確な計算力が必要です。結論だけを記憶するのではなく、考察する学習を平素の授業において習慣づけてほしい。

本校3年理系の「化学」は5単位であり、時間割として毎日授業があります。進度は2年までの約3倍になります。これまでとは異なり、学習の重心を化学に傾けて、繰り返しの問題演習が求められます。計画性と実行力を大切にしましょう。

3 学習計画

月	単元名	学習内容	時間	考查等
4	第1編 物質の状態と平衡			
	1章 物質の状態 1 物質の三態 2 気体・液体間の状態変化	融解、凝固、蒸発、沸点、 分子間力とファンデルワールス力・水素結合、化学結合と固体の融点、分子の熱運動と気体の圧力、圧力の単位と大気圧、気液平衡、蒸気圧曲線、沸騰	5	
	2章 気体の性質 1 気体 2 気体の状態方程式	ボイルの法則、シャルルの法則、絶対温度、ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式、混合気体の圧力ドルトンの分圧の法則、理想気体と実在気体	5	
	3章 溶液の性質 1 溶液 2 希薄溶液の性質 3 コロイド	溶解と水和、親水基・疎水基、溶解度と飽和溶液、溶解平衡、再結晶、蒸気圧降下と沸点上昇・凝固点降下 コロイド溶液の性質	1 2	
5	4章 固体の構造 1 結晶 2 金属結晶の構造 3 イオン結晶の構造 4 そのほかの結晶と非晶質	結晶と単位格子、面心立方格子、体心立方格子、六方最密構造、イオン結晶と単位格子、イオン結晶、共有結合性結晶、分子結晶、非晶質	4	1学期中間考查
	第2編 化学反応とエネルギー			
	1章 化学反応と熱・光 1 反応熱と熱化学方程式 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	反応熱と発熱反応・吸熱反応、熱化学方程式、ヘスの法則、結合エネルギー	5	
	2章 電池と電気分解 1 電池 2 電気分解	【電池と電気分解の単元は化学基礎の授業の中で発展的内容として扱ったので、ここでは省略する】		
6	第3編 化学反応の速さと平衡			
	1章 化学反応の速さ 1 反応の速さ 2 反応の速さを決める条件	反応速度の表し方、反応速度式と速度定数、反応速度への濃度・温度・触媒の影響、活性化状態、活性化エネルギー、正反応と逆反応	4	
	2章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡の移動	化学平衡（質量作用）の法則と平衡定数、平衡の移動とルシャトリエの法則、電離平衡と電離平衡定数、水のイオン積、水素イオン濃度とpH、緩衝作用と緩衝液	4	
	3章 水溶液中の化学平衡 1 電離平衡 2 塩の水への溶解	難溶性塩の溶解と溶解度積 共通イオン効果	8	1学期期末考查
7	第4編 無機物質	【第4編 無機物質は主に夏期休業中の特別補講で扱うものとする。】		
	1章 周期表と元素 1 周期表と元素	典型元素・遷移元素、陽性元素・陰性元素、金属元素・非金属元素	1 5	
	2章 非金属元素の単体と化合物 1 水素と希ガス 2 ハロゲンとその化合物 3 酸素・硫黄とその化合物 4 窒素・リンとその化合物 5 炭素・ケイ素とその化合物	水素と希ガス ハロゲンとその化合物 酸素・硫黄とその化合物 窒素・リンとその化合物 炭素・ケイ素とその化合物		
8	3章 典型金属元素の単体と化合物 1 アルカリ金属とその化合物 2 2族元素とその化合物 3 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	アルカリ金属とその化合物 2族元素とその化合物 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物		

9	4章 遷移元素の単体と化合物 1 遷移元素とその化合物 2 金属イオンの分離・確認	遷移元素とその化合物 金属イオンの分離・確認	4	2学期中間考査	
	5章 無機物質と人間生活 1 金属 2 セラミックス	金属 セラミックス			
10	第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の構造式の決定	ウェーラーの実験 有機化合物の分類 元素分析	6	2学期中間考査	
	2章 炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素	アルカン、アルケン、アルキン、異性体			
	3章 酸素を含む有機化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸とエステル 4 油脂とセッケン	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル 油脂とセッケン	1		
	4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 酸素を含む芳香族化合物 3 窒素を含む芳香族化合物 4 芳香族化合物の分離	ケクレ ベンゼン 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 芳香族化合物の分離	2		
11	5章 有機化合物と人間生活 1 食品 2 医薬品 3 染料 4 洗剤	【教科書本文を基に、食品、医薬品、線量、洗剤の具体例について各自調査研究する】	10	2学期中間考査	
	第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物 1 高分子化合物				
	2章 天然高分子化合物 1 単糖類・二糖類 2 多糖類 3 アミノ酸 4 タンパク質 5 核酸	単糖類・二糖類 多糖類 アミノ酸 タンパク質 核酸			2 7
	3章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 プラスチック 3 ゴム	合成繊維 プラスチック ゴム			1
12	4章 高分子化合物と人間生活 1 プラスチック利用の拡大と環境問題		5	2学期期末考査	
	課題解決学習	化学全般の知識を発展的に活用した課題解決学習			
1 2 3					

合計160時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（生物）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
理科	生物	3年理系	4	
科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
使用教科書	改訂版生物(数研出版)	副教材等	改訂版生物基礎(数研出版) 九訂版スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 三訂版リードLightノート生物(数研出版) セミナー生物基礎+生物(第一学習社)	

1 学習の目標

- (1) 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
- (2) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める。
- (3) 生物学的に探究する能力と態度を育てる。

2 学習の方法

(1) 予習について

予 ①朝学習などの授業以外の学習活動を利用して、先取りした内容も学習していく。家庭学習などで習を行い準備しておくこと。

(2) 授業について

①教科書や図説、必要に応じてプリントなどを用いて学習していく。単に板書を写す、プリントを埋めることだけでなく、積極的に授業に参加すること。
②学習内容を深めるために実験や観察を行い、生物学を探究するために必要な基本的な技能や知識を身につけるよう努力すること。本物の教材を用いた学習を通して、疑問を自ら考えて解明する態度を養い、生命現象に対する科学的な考え方を習得してほしい。

(3) 復習について

①授業を受けたらその日のうちにノートを整理し、内容の確認と知識の定着を図ること。そこで生じた疑問点はそのままにしておかず、教科書、図説、問題集を見て必ず解決するようにすること。
②考查前や長期休業期間などで、副教材を利用して問題演習に取り組み、教科書の内容の復習と、より理解を深められるよう実践的な問題に取り組んでもらう。

(4) 家庭学習について

- ①日常の授業の復習では、教科書やノートを見返すだけでなく、副教材を利用して問題演習に取り組むこと。単なる暗記だけでなく理解が深まるよう心がけること。
- ②与えられた課題や宿題だけでなく、ノートをまとめるなど、自分に必要なことを自ら主体的に考えて日常的に学習に取り組むこと。

(5) その他

授業は集中して受け、欠席しないこと。復習に重点を置くようなスタイルで学習を進めること。
課題の提出期限は厳守。
特に大学進学を希望する生徒は定期考查に向けた学習の他、各自で問題演習を繰り返すなど、確実に知識を身につけること。さらに模擬試験で実力を試し、計画的に学習を進めること。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
----------	----------	----------	-------

生物や生物現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な態度が身についている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事象にもとづいて科学的に判断できる。	生物や生物現象に関する観察、実験の技能を修得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に捉えることができる。	観察、実験などを通して生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識が身についている。
--	---	---	---

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	30	10	50
平常点(%)	100	10	30	10
考查点(%)	0	90	70	90

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等
4 ~ 5	第5章 動物の反応と行動	刺激の受容から行動まで、ニューロンの構造、ニューロンの興奮、興奮の伝導、興奮の伝達	【思考・判断・表現】 ・神経の伝導や伝達が電気的信号や化学物質によって行われていることを論理的に説明できる。 ・受容器の構造と刺激を受け取るしくみ、さらに、ヒトの眼がどのようにして明暗調節や遠近調節をしているかについて考察できる。 ・ヒトの中枢神経系における情報の処理や統合について考察できる。 ・反射の意義など、生命活動と直接結びつけて考察できる。 ・骨格筋が収縮するしくみについて考察する。また、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。	(4時間)
	1 ニューロンとその興奮	受容器と適刺激、視覚器、聴覚器・平衡受容器、その他の受容器	・生得的行動と学習による行動の違いを理解した上で、それぞれの行動の特徴やしきみ、神経系と行動の関係について考察できる。	(4時間)
	2 刺激の受容	神経系、中枢神経系、末しょう神経系、反射	【知識・理解】 ・ニューロンの構造、興奮の伝導と伝達のしくみ、神経伝達物質のはたらきについて理解している。 ・適刺激と受容器の関係、受容器としての眼および耳の構造やはたらきについて理解している。 ・ヒトの脳や脊髄の構造、はたらきについて理解している。 ・反射弓のしくみを正しく理解している。	(3時間)
	3 情報の統合	筋肉の構造と収縮、その他の効果器	・筋肉の構造と筋収縮のしくみを理解している。筋収縮におけるカルシウムイオンやエネルギーの供給についても理解している。	(3時間)
	4 刺激への反応	生得的行動、いろいろな生得的行動、学習	・生得的行動と学習による行動を、そのしくみとともに具体的な動物の行動を例として理解している。	(3時間)
	5 動物の行動			1 学期中間考查

5 ～ 7	第6章 植物の 環境応答 1 植物の生活と 環境応答	刺激に対する植物の反 応	【思考・判断・表現】 ・環境の変化に対する植物の反応につ いて、屈性と傾性の違いを理解してい る。植物の反応には成長を伴うものが 多いことを理解しつつ、さらに、成長を 伴わない膨圧運動について説明でき る。 ・屈性に関するいろいろな実験結果や 参考「根の重力屈性とそのしくみ」を通 して、屈性のしくみを説明できる。 ・花芽形成や休眠、発芽と環境要因を植 物の生存戦略と関連づけて考察でき る。また、それらの現象を引き起こすし くみについて考察できる。 【知識・理解】 ・屈性と傾性の違いとそれぞれの具体 例を理解している。また、膨圧運動と成 長運動の違いについて理解している。 ・オーキシンの性質とはたらきについ て理解している。また、その他の植物ホル モンの性質やはたらきについても理 解している。 ・花芽形成や発芽を引き起こす環境要 因と、それらの現象が起こるしくみを、 関与する分子のはたらきをふまえて理 解している。	(2 時間)	1 学期期末考査
	2 発芽の調節	種子の休眠と発芽、種子 の発芽と光		(4 時間)	
	3 成長の調節	成長の調節と植物ホル モン、オーキシンのはた らき		(4 時間)	
	4 環境の変化に 対する応答	物質の出入りの調節、植 物の防御応答		(4 時間)	
	5 花芽形成・結 実の調節	花芽形成と日長、花芽形 成のしくみ、花芽形成と 温度		(6 時間)	
7 ～ 10	第7章 生物群 集と生態系 1 個体群	個体群、個体群の成長と 密度効果、個体群の齡構 成と生存曲線	【思考・判断・表現】 ・自然界における個体群密度の具体的 な測定方法、個体群の成長曲線の特徴 と密度効果の関係、生存曲線のタイプ と育児能力との関係について考察でき る。 ・群れることによる利益と不利益を理 解し、縄張りの大きさがコストと収益 の関係によることや群れで生活する合 理性などについて考察できる。動物の 社会について具体例をあげて説明でき る。 ・異種個体群間について、種間競 争、被食者-捕食者相互関係、共生と寄 生などについて理解したうえで考察 し、的確に説明できる。 ・生物群集や生態的地位、生態的同位種 について理解し、生物群集における多 様な種の共存について考察できる。 ・生態系における物質生産とエネルギ ー効率とは何かを考え、説明できる。 ・生物多様性に影響を与える要因、個体 群の絶滅を加速する要因について理解	(7 時間)	
	2 個体群内の個 体間の関係	動物の群れ、縄張り、動 物の社会		(5 時間)	
	3 異種個体群間 の関係	生物の異種個体群間 における競争、被食者-捕 食者相互関係、共生と寄 生		(4 時間)	
	4 生物群集	生物群集、生態的地位と 共存		(4 時間)	
	5 生態系におけ る物質生産	生態系の成り立ち、生態 系における物質生産、さ まざまな生態系におけ る物質生産、生態系にお けるエネルギーの利用		(5 時間)	

	2 生物の多様性	生物の分類体系, 細菌, 古細菌, 真核生物	<p>を整理し, 表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分類群の具体例と特徴をあげ, 陸上生活への適応との関連からそれらの特徴を評価できる。 ・発生過程の特徴を重視した動物の分類と分子データによる動物の分類の両方の特徴を理解し, 表現できる。 ・接合菌類, 子嚢菌類, 担子菌類の有性生殖の方法の違いを整理し, 表現できる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種概念, 学名の意義, 系統分類の方法などについて理解している。 ・細菌と古細菌の2つのドメインの特徴を理解している。 ・原生生物に含まれる分類群を正しく認識し, 特徴を理解している。 ・植物の生活環の共通性と多様性を理解している。維管束の有無, 種子形成の有無によって植物が分類できることを理解している。 ・各分類群の特徴を進化の過程と関連づけて理解している。 ・菌類という分類群の特徴を理解している。さらに, それらが有性生殖の方法によって分類されていることを理解している。 	(5 時間) 2 学期期末考査
1 ~ 2	課題学習	2 年生からの生物の学習を通して, 生物学的に探究する能力と態度をもとに, 生物学の基本的な概念や原理・現象について深く考察する	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物事象を実証的, 論理的に考え, 分析的, 総合的に考察することができる。 また, 問題を解決し, 事象に基づいて科学的に判断することができる。 	(36 時間)

合計 128 時間 (55 分授業)

令和5年度シラバス（化学基礎探究）

教科名 理科	科目名 化学基礎探究	履修学年 3（文系）	単位数 2	担当者
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高めるとともに、化学的な事物、現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
使用準教科書	改訂化学基礎(東京書籍)	副教材等	第一学習社 セミナー化学基礎 数研出版 フォトサイエンス化学図録 数研出版 チェック&演習 化学基礎	

1 学習の目標

(1) 化学反応の量的関係、酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と

関連づけて考察できる。

(2) 文系進学者のための一般教養的化学の基礎の習得、および大学入学共通テストの受験対策を行う。

(3) 上記の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、科学的に探究する能力を

高める。

2 学習の方法

(1) 予習について

① 教科の特性上、前出の内容を踏まえて更に発展させていくという構成になっているので、復習が重要である。

② 余裕のある人は、更に予習を行えば尚効果的である。

(2) 授業について

① 前出の内容がしっかり理解できているという前提で授業が展開されるので、しっかりとした復習が必要になってくる。

② 機械的に記憶するという力も不必要ではないが、自然界の法則、理論を考える学問なので、授業で伝えられた法則、規則を考えながら聞き、応用できることが重要である。

(3) 復習について

① 授業で伝えられた化学的法則をいろいろなケースに当てはめ理解を深めることが、家庭学習における復習であると考えられる。したがって、副教材等を授業の進捗に合わせて合わせながら、その都度学習していくことが必要である。

(4) 家庭学習について

① 家庭学習においては、復習中心に考える。その際、化学図録を傍用すると視覚的にも理解しやすい。

(5) その他

① 中学校で学習する内容に比べると、飛躍的に定量的な内容が多くなる。四則計算を素早く正確に行う力も必要である。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つことができる。 授業で得た結果を基に発展的な内容に興味をもって自主的活動を行うことができる。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 授業内容について科学的な捉え方ができる。 授業の成果を活かして社会や生活との関連を考察することができる。 発展的な内容についても思考を展開することができる。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 学んだ内容が関連づけて整理され、定着している。 知識を用いて発展的な応用ができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	40	10	40
平常点(%)	100	10	50	10
考查点(%)	0	90	50	90

※この割合は年間を通じた目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画 (1 単位時間 : 55分)

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等	時間
4	第2編 物質の変化				
	3章 酸化還元反応				
5	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化数 酸化還元反応と酸化数 	<p>【関心・意欲・態度】 酸化還元反応に関する事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 酸化還元反応に関する事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを通して、事実を分析的・総合的に捉え、科学的に判断して得られる結果を表現できる。</p> <p>【観察・実験の技能】 観察、実験の技能を習得するとともにそれらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。</p>	1学期中間考査	5 5 5
6	3 金属の酸化還元反応 4 さまざまな酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸化剤と還元剤 電子の授受と反応式 酸化剤と還元剤のはたらきの強さ 酸化剤と還元剤の量的関係 金属のイオン化傾向 金属の反応性 金属イオンと金属単体の反応 電池の原理 実用電池 一次電池と二次電池 電気分解 ファラデーの法則 電気分解の応用 	<p>【観察・実験の技能】 観察、実験の技能を習得するとともにそれらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。</p> <p>【知識・理解】 観察、実験を通して、酸化還元反応に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。</p>	1学期期末考査	10
7					
8					
9	序編 化学と人間生活				10
	1 人間生活の中の化学	<ul style="list-style-type: none"> 物質について学ぶ「化学」 文明を金属とともに 	<p>【関心・意欲・態度】 物質と人間生活、化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連、歴史に興味を持ち、意欲的にそれらに取り組むとともに、科学的態度を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 人間生活の中の化学に関する事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを通して、事実を分析的・総合的に捉え、科学的に判断して得られる結果を表現できる。</p> <p>【観察・実験の技能】 観察、実験の技能を習得するとともにそれらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。</p>		10
10	2 化学とその役割	<ul style="list-style-type: none"> セラミックス プラスチック 繊維 食糧の確保 食料の保存 洗剤 物質と環境リスク 	<p>【知識・理解】 観察、実験を通して、人間生活の中の化学に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。</p>	2学期中間考査	
11					

12	課題解決学習	化学基礎全般の知識を 発展的に活用した課題 解決学習。	<p>【関心・意欲・態度】 化学基礎全般の学習内容を効 果的に活用することができ、意 欲的に課題に取り組むとともに 、科学的態度を身につけている 。</p> <p>【思考・判断・表現】 化学基礎全般の知識を発展的に 活用した学習を行うことによっ て、思考・判断し、表現するこ とができる。</p> <p>【観察・実験の技能】 観察、実験の技能を習得する とともにそれらの過程や結果お よびそこから導き出した自らの 考えを的確に表現できる。</p> <p>【知識・理解】 化学基礎全般の知識を発展的に 活用した学習を行うことによっ て、知識・理解を深めている。</p>	2学期期末考 査	1 9
----	--------	-----------------------------------	---	-------------	-----

合計64時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（生物基礎探究）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
理科	生物基礎探究	3年文系	2	
科目の目標	生物や生物現象への関心をより高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的・生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
使用 準教科書	改訂版 生物基礎（数研出版） 改訂 化学基礎（東京書籍）	副教材等	九訂版スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 三訂版リードLightノート生物(数研出版) 2023チェック&演習生物基礎(数研出版)	

1 学習の目標

- (1) 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
- (2) 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的な視点をもって生物や生物現象への関心を高める。
- (3) 生物学的に探究する能力と態度を育てる。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①朝学習などの授業以外の学習活動を利用して、先取りした内容も学習していく。家庭学習などで予習を行い準備しておくこと。

(2) 授業について

- ①教科書や図説、必要に応じてプリントなどを用いて学習していく。単に板書を写す、プリントを埋めることだけでなく、積極的に授業に参加すること。
- ②学習内容を深めるために実験や観察を行い、化学的視点をもって生物学を探究するために必要な基本的な技能や知識を身につけるよう努力すること。本物の教材を用いた学習を通して、疑問を自ら考えて解明する態度を養い、生命現象に対する科学的な考え方を習得してほしい。

(3) 復習について

- ①授業を受けたらその日のうちにノートを整理し、内容の確認と知識の定着を図ること。そこで生じた疑問点はそのままにしておかず、教科書、図説、問題集を見て必ず解決するようにすること。
- ②考査前や長期休業期間などで、副教材を利用して問題演習に取り組み、教科書の内容の復習と、より理解を深められるよう実践的な問題に取り組んでもらう。

(4) 家庭学習について

- ①日常の授業の復習では、教科書やノートを見返すだけでなく、副教材を利用して問題演習に取り組むこと。単なる暗記だけでなく理解が深まるよう心がけること。
- ②与えられた課題や宿題だけでなく、ノートをまとめるなど、自分に必要なことを自ら主体的に考えて日常的に学習に取り組むこと。

(5) その他

授業は集中して受け、欠席しないこと。復習に重点を置くようなスタイルで学習を進めること。

課題の提出期限は厳守。
特に大学進学を希望する生徒は定期考査に向けた学習の他、各自で問題演習を繰り返すなど、確実に知識と見方・考え方を身につけること。計画的に学習を進めること。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
化学的な視点をもって生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な態度を身につけようとしている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、化学的な見方・考え方をふまえて、観察・実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、科学的に判断し、的確に	生物や生物現象に関する観察・実験の技能を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録整理し、科学的に探究する技能を身につけている。	観察・実験などを通じて化学的な視点をもって生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

	表現できる。		
--	--------	--	--

(2) 評価の方法

評価の観点	関心意欲態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	30	10	50
平常点(%)	100	10	30	10
考查点(%)	0	90	70	90

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習項目	学習内容及び評価の観点	考查等
4 ~ 5	生物と遺伝子	光学顕微鏡の使用法 マイクロメーターの使用法 細胞分画法 酵素の性質 光合成と呼吸の化学反応における物質量の計算	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡を自分で扱い、観察することに興味をもっている。 顕微鏡で観察されるものに対して興味をもっている。 顕微鏡視野内の観察対象の大きさを知ることに関心をもっている。 生体内で行われる代謝について興味関心をもっている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡像の見え方、視野の大きさ、明るさなどについて考察できる。 観察したものを正確に記録、表現できる。 マイクロメーターの計測値から実際の大きさを知ることができる。 代謝での物質の変化とエネルギーの出入りの関係について考察できる。 ATP、酵素について代謝での役割を考察できる。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 良好な観察のための顕微鏡操作ができる。 観察対象を明確に把握できる。 マイクロメーターによる計測を行うことができる。 試料からDNAを抽出する手法を理解している。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡の各部の名称と役割を理解している。 観察での問題点を把握し、解決できる。 マイクロメーターでの測定方法の原理を説明できる。 呼吸や光合成の過程を化学的な側面から把握し、説明できる。 	(10 時間) 1 学期中間考查

5 ～ 7	生物と遺伝子	肺炎双球菌の形質転換 T2ファージの増殖 DNAなど高分子化合物の構造 DNA量の変化 唾腺染色体の観察 細胞周期 核移植実験	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体がどのようにして解明されてきたかについて興味をもっている。 ・遺伝子という概念がDNAという具体的な物質として理解されることに興味をもっている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNAが遺伝子の本体と判断されるようになったのはどのような事実からかについて考察できる。 ・体細胞分裂におけるDNAの複製と分配の周期の意味を考察できる。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の固定・解離・染色・押しつぶしの意味を理解し、その技法を理解している。また、各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間が推定されることを理解している。 ・ユスリカの幼虫の唾腺染色体を染色し、観察する。その際、DNAとRNAの染色の手法を理解している。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体がタンパク質ではなく、DNAであるという考えに至った経緯を正しく理解している。 ・DNAという物質の構造を化学的な側面からも理解し、さらにその構造的特徴が遺伝情報を担う物質として機能することを理解している。 	(10時間) 1学期期末考査
7 ～ 10	生物の内部環境の維持	酸素解離曲線 血液凝固とその化学反応 体液の循環 尿の生成 無脊椎動物における体液 濃度(浸透圧)の調節 血糖量調節 体温調節 免疫のしくみ 血液型と抗原抗体反応	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体内環境の恒常性のために、体液の塩分濃度や水分量を安定に保つことが重要であることに気づき、腎臓や肝臓の構造とはたらきについて興味関心をもっている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒常性の維持に関係する体液とはたらきについて考察し、体液の循環についても理解するとともに、血液による酸素運搬のしくみや血液凝固のしくみについて正しく説明できる。 ・動物にとって体液と外液の塩分濃度差が生存上重要な問題であることを把握し、その解決法を類推することができる。 ・腎臓の構造と機能を、塩分濃度調節と水分量の維持の観点から捉えるとともに、そのはたらきを数量的に考え、計算できる。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りと、複雑な作業・計算手順を正確に行うことができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部環境とその恒常性の維持について理解し、体液の種類とそれらの役割・酸素運搬のしくみや血液凝固について理解している。 ・尿生成の重要性をつかみ、腎臓の主なろ過・再吸収における物質の移動について理解している。 ・心臓の体積や脈拍数あるいは酸素解離曲線の意味などについて理解している。 	(13時間) 2学期中間考査

10 ～ 11	生物の多様性と生態系	光の強さと光合成層別刈取法と生産構造図遷移に関する探究ギャップ更新暖かさの指数とバイオーム	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界および日本のバイオームの分布について興味をもち、その成立の要因について考える態度を身につけている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> バイオームの分布とその分布に影響を与える環境要因について考察できる。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月平均気温のデータを集め、暖かさの指数を算出できる。さらにインターネットなどを利用して、算出した値に対する評価を行うことができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程と遷移が起こるしくみについて理解している。 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 	(13 時間) 2 学期期末考査
12 ～ 3	生物の多様性と生態系	有機物の収支生態ピラミッドキーストーン種化学物質と生物濃縮二酸化炭素濃度の変化外来生物の調査	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系におけるバランスやそれを与える人間生活の影響などについて、関心や意欲をもち、より深く知ろうとする態度をもっている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系のバランスが保たれるしくみを学習し、それが人類の活動でどのようにして変化しつつあるのかを考えることができる。 生態系のバランスを維持するために、人類が取り組む課題について考え、表現することができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者や消費者、食物連鎖、生態ピラミッドなどの生態系にかかわる用語の意味を理解し、生態系を一つのまとまりとして捉えることができる。 生態系のバランスや地球規模の環境問題、地域の環境問題などについて、その原因や人類の活動の影響を正しく理解している。 これまでの学習を通じて得た知識を活用して、さまざまな環境問題について、保全の方法を具体的に考えることができる。 	(18 時間)

合計64時間(55分授業)

令和5年度授業シラバス（体育）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
保健体育	体育	3	2	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通じて、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
使用教科書	最新高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	副教材等	最新高等保健体育ノート（大修館書店）	

1 学習の目標

- (1) 運動技能を高め、運動の楽しさ、喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで運動する力を身につける。
- (2) 単に体の調子を整えることだけではなく、いろいろな運動を行うことによって自己の体の変化に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流する力を身につける。
- (3) 公正・協力・責任などの態度を身につけ、健康・安全に留意して運動する力を身につける。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ① 教科の特性上、実技中心の学習を行う。また、ルールや審判法を理解し、運営の仕方も学習する。
- ② 与えられた運動をただ行うだけではなく、各々の課題がどこにあるのか、課題の解決のためには何をどのようにすればよいかなど、積極的に課題の発見や解決に取り組むこと。
- ③ 最初の授業で授業の取り組み方についての説明をする。授業を安全に進めていくためのさまざまな注意事項があるので、理解し厳守すること。

(2) 学習の留意点

- ① 「できない」だけではなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業は積極的に活動すること。
- ② 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ③ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談して判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとしている。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、その方法・内容を考え、工夫して活動することができる。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、その技能を高めていく。また、自己の能力や生活に応じて体力を高める運動の合理的な行い方を身に付けることができる。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けることができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	10	70	10
平常点(%)	100	100	100	100
考查点(%)	0	0	0	0

※この割合は年間を通じた目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	時間

4	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、列の増減、挨拶 ・学校体操 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 	<p>【関心・意欲・態度】 体づくりの意義を理解し、体を動かす楽しさや心地よさを探究しようとしている。</p> <p>【思考・判断】 自分に適した運動や学習方法を見つけている。</p> <p>【運動の技能】 学校体操の形、声の大きさを意識して行っている。</p> <p>【知識・理解】 集団の一員として協調性をもって行動することの大切さを理解しているか。また、学校体操の流れ、ポイントを理解している。</p>	種目ごとにスキルテストを実施	7	
5	陸上競技 (全員)	<ul style="list-style-type: none"> ・男子 3000m ・女子 1500m ・ハードル走 ・円盤投げ・走り幅跳び (選択) 	<p>【関心・意欲・態度】 自ら進んで取り組もうとしている。</p> <p>【思考・判断】 自己の能力に応じた課題を設定し、安全に取り組んでいる。</p> <p>【運動の技能】 習得した技能を発揮できる。</p>		6	
6	選択球技 I バスケットボール (男女選択)	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーンディフェンス ・ポストプレー ○ゲーム 	<p>【関心・意欲・態度】 球技の特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるよう協力して練習やゲームに取り組んでいる。</p> <p>【思考・判断】 チームや個人の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習方法を工夫し、ゲームに生かしている。</p> <p>【運動の技能】 技能の段階に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。</p>		16	
	サッカー (男女選択)	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル・パス ・シュート ○集団的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ○ゲーム 				
7	バレーボール (男女選択)	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・パス・スパイク ・ブロック・サーブ ○集団的技術 <ul style="list-style-type: none"> ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム 	<p>【知識・理解】 球技の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的練習方法、ルール、審判法の知識を身に付けている。</p>			
8	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かなスポーツライフの設計 ・生涯スポーツの見方考え方 ・ライフスタイルにおおじたスポーツ ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境 	<p>【関心・意欲・態度】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を解決するための活動などを通して、学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【思考・判断】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方や豊かなスポーツライフの設計の仕方について、情報を比較・分析したりし、学習した知識を活用したり応用したりしようとしている。</p> <p>【知識・理解】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方や</p>		授業にて確認テスト等	6

			豊かなスポーツライフの設計の仕方について、理解している。 また、運動やスポーツの技術と技能、体力の関係について理解している。		
--	--	--	---	--	--

9	選択球技Ⅱ バレーボール (男女選択)	○個人的技術 ・パス・スパイク ・ブロック・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	【関心・意欲・態度】 球技の特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるよう協力して練習やゲームに取り組んでいる。 【思考・判断】 チームや個人の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習方法を工夫し、ゲームに生かしている。 【運動の技能】 技能の段階に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 【知識・理解】 球技の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的練習方法、ルール、審判法の知識を身に付けている。	種目ごとにスキルテストを実施	15
	ソフトボール (男子選択)	○個人的技術 ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング ○集団的技術 ・シートノック・送球練習 ○ゲーム			
	10 バドミントン (男女選択)	○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム			
11	選択球技Ⅲ バスケットボール (男女選択)	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・ゾーンディフェンス ・ポストプレー ○ゲーム	【関心・意欲・態度】 球技の特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるよう協力して練習やゲームに取り組んでいる。 【思考・判断】 チームや個人の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習方法を工夫し、ゲームに生かしている。 【運動の技能】 技能の段階に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	14	
	バドミントン (男女選択)	○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム			
12	卓球 (男女選択)	○個人的技術 ・フォアハンドストローク ・シェークハンド ・ツッツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	【知識・理解】 球技の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的練習方法、ルール、審判法の知識を身に付けている。 【思考・判断】 個人の能力に応じた課題を設定し豊かなスポーツライフにつながる工夫ができる。		
1					
2					
3					

合計64時間 (55分授業)

令和5年度授業シラバス(音楽Ⅱ)

教科名 芸術	科目名 音楽Ⅱ	履修学年 3	単位数 2	担当者 鈴木 徹
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現能力を伸ばす。			
使用教科書	MOUS A II (教育芸術社)	副教材等	なし	

1 学習の目標

- ① 音楽Ⅰでの学習を基盤として、音楽表現の楽しみを広げる。
- ② 様々な音楽経験を通して音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現能力を伸ばす。

2 学習の方法

(1) 授業について

- ① 実技を中心に、表現の基礎から応用までを行います。自分たちで創意工夫を加えることで、表現力を身につけていきます。
- ③ お互いの音を聴きあうことで、様々な表現方法を理解することを身につけていきます。

(2) 家庭学習について

- ① 基本的には予習・復習は必要ありません。ただし、極度に実技が苦手といった場合に、昼休みや放課後を利用した練習時間を取るなどの努力をして下さい。苦手であっても努力をするということが最も大切です。
- ② 基本的な楽譜や音符の読み方などがわからない場合は、必ず聞きにくるなどの努力をし、家庭学習をするようにして下さい。授業でも考査でも追いつくのが大変になります。

3 評価の留意点

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	見方や考え方	技能	知識・理解
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表現できる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わうことができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	見方や考え方	技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20点	40点	30点	10点
平常点(%)	80%	30%	20%	30%
考査点(%)	20%	70%	80%	70%

4 授業計画

月	单元名	学習活動	評価方法	時間
4 5	創作	編曲、移調等の作業を伴う、オルゴールキットによるオルゴール制作。	観察 演奏評価 テスト	10 12
6 7	器楽 ソロ・アンサンブル演奏	進路に応じた楽曲を選択し、鍵盤実習。 個人またはアンサンブルによる演奏 学年末の演奏会に向けて、各自が決めた課題に取り組む。	観察 演奏評価 発表	8
8 9	歌唱	個人またはアンサンブルによる演奏	観察 記述の評価	18
10 11 12	ミュージックベル 発表会 課題学習	ミュージックベルの演奏 学年末に演奏会をおこない、他の演奏を鑑賞し、批評をおこなう。	発表 演奏評価 観察 演奏評価	16 5
1 2 3		1年間の学習をとおして、ピアノ演奏について、適正な指使いをもとに深く考察する。	ベートーベンピアノソナタより 1つの楽章を適正な指使いで演奏できたか。	27
計96時間(55分授業)				

教科(科目)	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4	履修学年	3 学年
使用教科書	LANDMARK Fit English Communication Ⅲ (啓林館)				
副教材等	同教科書予習・完成ノート ジーニアス英和・和英辞典(大修館書店・電子辞書) まる暗記ゼロのイディオムマスター(河合出版) 入門英文解釈の技術 70(桐原書店) Listening Laboratory Advanced(いっずな書店) 入門英文問題精講(旺文社) READING CORE 3 (啓隆社) 総合英語 Vision Quest (啓林館)				

1 学習目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的能力を養う。

2 指導の重点

- ①これまでに培った語彙や文法の知識を使って、英文を解釈する力をつけます。
- ②ディクテーションと音読によって、リスニングの力を伸ばします。
- ③世の中のこと、問題を自分事として身近に捉え、自分の考えを発信する態度を身につけます。
- ④自分に必要な知識やトレーニングを判断し、PDCA(学習計画、実行、振り返り、改善と実行)サイクルを通して身につけます。

3 学習計画

月	課	題名	学習活動(指導内容)	評価方法	時間
4	L1	Emperor Penguin!	・<動物・環境> 南極の厳しい環境を生き抜くコウテイペンギンの生態	定期 考査・ 熟語 テスト・ パフォー マンス テスト	23
5	L2	Caffeine	・<食物・健康> さまざまな飲食物に含まれるカフェインの利点と欠点		
6	L3	Blood is Blood	・<人権・生き方> 血液の研究と人種差別撤廃に生涯を捧げた黒人医師	定期 考査・ 熟語 テスト・ パフォー マンス テスト	23
7	L4	Biomimetics	・<自然・化学> 自然を模倣することで生み出される画期的な製品		
7	L5	Communication without Words	・<言語・比較文化> コミュニケーションの70パーセントを占める身体言語		
9	L6	Christmas Truce	・<戦争・平和> 第一次世界大戦の戦場で起きたクリスマスの奇跡	定期 考査・ 熟語 テスト・ パフォー マンス テスト	25
10	L7	Political Correctness	<言語・現代社会> 差別や偏見のない中立的な用語の利用と問題点		
10	L8	Global Water Crisis	・<環境・国際社会> 世界の深刻な水不足と日本が取るべき行動		
11	L9	Animal Math	・<動物・科学> 自然界で生き残る秘訣は「数学」にある?	定期 考査・ 熟語 テスト・ パフォー マンス テスト	25
12	L10	The Poorest President in the World	・<生き方・現代社会> 「世界一貧しい大統領」と呼ばれたホセ・ムヒカ		
12	L11	My Messages to You	・<スピーチ> 英語教師が最後の授業で卒業生に贈る言葉		
1	2	3	課題学習		32

計 128時間(55分授業)

4 課題・提出物等

- ・毎週熟語テストを実施します。範囲は別表で提示します。
- ・毎週末、リスニングと英文精読の課題を出します。定期考査で出題します。
- ・その他、教科書の予習と指示された復習・副教材の復習を毎日します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

(1) 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

(2) 評価方法

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	10	40	40
平常点(%)	100	50	0	50
考査点(%)	0	50	100	50

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

6 担当者からの一言

コミュニケーション英語Ⅲにおける位置づけを次のように考えています。
 授業 = 「定着度の確認」「新出事項の理解」「意見交換」の場。
 家庭 = 「トレーニングで定着をはかる」場。

英語力の伸びは、家庭でのトレーニングの量と質にかかっています。
 どんなに疲れていても、たとえ1分でも、毎日必ず英語のトレーニングをしましょう。
 入試を突破し、社会で使える英語力が必ず身につきます。一緒にがんばりましょう。

令和5年度シラバス (英語表現Ⅱ)

学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	英語表現Ⅱ	単位数	2	履修学年	3 学年
使用教科書	Vision Quest English Expressions II Hope (啓林館)				
副教材等	Workbook (啓林館) Vision Quest 総合英語 (啓林館) ジーニアス英和・和英辞典 (大修館書店) FINAL DRAFT (いっずな書店) UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版)				

1 学習目標

- (1) 実生活に即したトピックでの頻出英語表現の知識を増やす。
- (2) 伝えたい日本語のメッセージを既習の頻出英語表現を使って英語に変換する力をつける。
- (3) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えをまとめ、発表できる。

2 指導の重点

- ①これまでに培った語彙や文法の知識、英語表現を使って、メッセージを英語で伝える力をつけます。
 ②世の中のこと、問題を自分事として身近に捉え、自分の考えを発信する態度を身につけます。
 ③自分に必要な知識やトレーニングを判断し、PDCA(学習計画、実行、振り返り、改善と実行)サイクルを通して身につけます。

3 学習計画

月	課	題名	学習活動(指導内容)	評価方法	時間
4	L1 L2 L3 HOPE P2L1	情報化社会(+面-面) スマホ パラグラフを書く① ロボットの有用性	「因果」を表す 「世間の考え」を表す 「最近」の使い分け 「主論文→支持文→結論文」の構成で、列挙・順序に注意して書く。	定期 考査 小 テ ス ト	8
	5 6	L4 L5 L6 HOPE P2L2	健康 仕事・雇用 パラグラフを書く② 英語を学ぶ意義		
7	L7 L8 L9	環境問題 言語	「因果関係」を表す前置詞表現を整理する 「引用元」を示す 「約」の使い分け		
9	L10 L11 L12 HOPE P2L3	言語・文化 教育 コミュニケーション パラグラフを書く③ 田舎と都会	「多い・少ない」を表す 「可能・不可能」を表す 「仮定・一般論」を表す 「導入文→主論文→支持文」の構成で、比較・対照に注意して書く。	定期 考査 小 テ ス ト	14
	10 11	L13 L14 L15 HOPE P2L4	読書 旅 パラグラフを書く④ 若者の本離れ		
12 1 2 3		課題学習	1年間学習した内容をもとに、入試の過去問題等で実践演習する。		15

計 64 時間(55 分授業)

4 課題・提出物等

- ・毎時、UPGRADE 小テストを実施します。範囲は別表で提示します。
 ・長期休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

(1) 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

(2) 評価方法

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解

評価する材料	授業内発表 提出物	定期考査Writing パフォーマンステストSpeaking	定期考査Reading	文法・語法小テスト 定期考査
評価の割合 (100点換算)	20	30	20	30
平常点(%)	100	0	0	50
考査点(%)	0	100	100	50

*この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

6 担当者からの一言

英語表現Ⅱ(3年次)の位置づけを次のように考えています。

「自分で英文を書くことができるようになる」ことを目指します。
そのためのポイントは以下の3つです

- ①日本語を読み、伝えたいメッセージをつかむ
- ②求められているポイント(文法・語法・時制・表現)を見抜く
- ③これまでに習得した知識を使って書く

1・2年次に身につけた英文法、暗唱文に加え、3年次では「頻出テーマ別の表現・語彙」を学びます。
これらを駆使して、伝えたいメッセージを英語で伝えるトレーニングをします。
スタートは和文英訳、ゴールは自分で伝えたいメッセージを英語で伝えることです。

入試対策にとどまらず、将来社会で使える英語力を身につけましょう。

令和5年度シラバス(英語セミナーA)

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
外国語	英語セミナーA	3	2	
使用準教科書	My Passport English Conversation(文英堂) Vision Quest Expressions II Hope(啓林館)	副教材等	電子辞書	

1 学習の目標

- (1) コミュニケーションに関心を持ち、英語を使って積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- (2) 日常的な身近な話題について情報や考えなどを英語で伝えたり、理解したりする能力を身につける。
- (3) 英語やその運用についての知識を身につけ、その背景にある文化などを理解する能力を涵養する。

2 指導の重点

- (1) 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答することができる。
- (2) 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりすることができる。
- (3) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝えることができる。
- (4) 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話することができる。

3 学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点	実技・ 考査等	時間
4	Lesson 1 Making Conversations	Introducing someone Asking about someone's job	基本的な自己紹介を英語ですることができる。また、自分の友人を第三者に対して紹介することができる。	中間考査 パフォーマンス	8
5	Lesson 2 At the Hotel	Making a request Asking for the times	ホテルで交わされる会話表現を理解し、自分の要求を相手に伝えることができる。		
6	Lesson 3 Going Sightseeing	Asking for directions Asking how long something takes	観光案内所での会話表現を理解し、自分の行きたい場所について英語で道をたずねることができる。		
	Lesson 4 Small Businesses	Making your wish clear Making a suggestion	郵便局や銀行で交わされる会話表現を理解し、郵便を送ったり、お金をおろしたりすることができる。	期末考査 筆記試験	13
7	Lesson 5 Eating Out	Placing an order Asking for the price	レストランで交わされる会話表現を理解し、自分の食べたいものを注文することができる。	中間考査 パフォーマンス	14
8	Lesson 6 Going Shopping	Asking for a different size or color Asking for permission to try something on	買い物をするときの会話表現を理解し、必要なものを買うことができる。		
9	Lesson 7 Public Transportation	Asking where something is Giving advice	駅で交わされる列車やバスを利用するときの会話表現を理解し、列車やバスを利用することができる。		
10	Lesson 8 Getting Help	Asking how someone feels Saying something in different words	病院や薬局で交わされる会話表現を理解し、自分の体調を改善するための方策をとることができる。	期末考査 筆記試験	14
11			友だちを行事などに誘う会話表現を理解し、友人を様々な行事に誘うことができる。		

	Lesson 9 Going Out	Extending an invitation Emphasizing something	空港で航空機を利用するときに交わされる会話表現を理解し、航空機を利用し海外に行くことができる。		
	Lesson 10 Taking a Flight	Conversation at an airport			
12 1 2 3	課題学習	1年間学習した、テーマに沿った表現を用いて相手とのコミュニケーションをとる力を養う。	1,2学期に学習した表現を応用することができる。		15

合計64時間(55分)

授業)

4 課題・提出物等
活動教材、プリント等

5 評価規準と評価方法

(1) 評価の観点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで自己を表現し、他者とのコミュニケーションを図ろうと努力している。	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなど、相手に伝えようとする内容を、英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについて、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。	英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深めることができる。

(2) 評価の方法

評価の観点	① コミュニケーションへの 関心意欲態度	② 外国語表現の能力	③ 外国語理解の能力	④ 言語や文化についての 知識・理解
評価の割合 (100点換算)	20	30	30	20
平常点(%)	100	50	50	0
考查点(%)	0	50	50	100

※この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることが

ある。

6 担当者より

(1) 予習について

授業で扱われる単元には予め目を通し、わからない語句は辞書で調べてください。

(2) 授業について

①1週間に1時間(前半)はJTEによるソロティーチングです。教科書をメインとします。

②1週間に1時間(後半)はALTを交えたチームティーチングです。パフォーマンスをメインとします。

(3) 復習について

授業の活動で行ったこと、身につけた表現を、家でもう一度やってみましょう。

(4) 家庭学習について

課題として出されたパフォーマンスに真剣に取り組みましょう。

(5) その他

①ALTと積極的に英語でコミュニケーションを取る態度を養いましょう。

②間違ってもいいです。みんなで失敗を当たり前と捉える姿勢を持って、勇気を持って活動や発表に挑戦しましょう。

令和5年度授業シラバス(英語セミナーB)

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
外国語	英語セミナーB	3	2	
使用準教科書	LANDMARK Fit English Communication II (啓林館) Vision Quest English Expressions II Hope (啓林館)	副教材等	関正生のThe Rules 英語長文問題集① 関正生のThe Rules 英語長文問題集② 共通テストドリル10minutes 英語リーディング 共通テストドリル10minutes 英語リスニング	

1 学習目標

- (1)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- (2)英語で情報や考えなどを的確に理解する力を養う。
- (3)他の人に英語で自分の考え等を適切に伝える能力を身につける。
- (4)論理の展開や表現の工夫を行い、応用的、発展的に英語を運用できる力を養う。

2 指導の重点

- (1)日常で起きた事象や社会的な出来事を読み、要点を捉えて理解すること
- (2)読解を通して作者の意図を素早く理解して整理できること
- (3)読んで理解したことを整理して自分の意見をまとまりのある文章で書くこと

3 授業計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	評価の観点	実技	評価	時間	
4	各ユニットのテーマ	ア 英文を読む	・英文を読解をして、作者の主張を理解することができる。	パフォーマンステスト	中間 考 査	8	
5	1 科学 2 生活 3 文化	イ 要点を整理して問題に解答する					
6	4 生物 5 科学 6 文化	ウ 単元の習得目標項目を意識して訳す	・制限字数内で段落構成を意識しながら要点をまとめることができる。				
7	7 フィクション 8 科学 9 歴史	エ 自分の言葉でまとめる	・文の抑揚や単語の発音・アクセントに注意しながら音読することができる。				
8	10 生物	オ 語彙・語法の整理	・読んだものについて、自分の意見を適切な英語表現を用いてまとめることができる。		期末 考 査		13
9		・日常で起きた事象に関する英文を読んで、英語で意見をまとめる。			中間 考 査		14

10	11 文化 12 国際社会 13 環境 14 歴史 15 言語	ア 英文を読む イ 要点を整理して理解する ウ 自分の言葉で要点をまとめる エ 発表する オ 語彙・語法の整理	・英文を読解して、作者の主張を理解することができる。 ・制限字数内で段落構成を意識しながら要点をまとめることができる。 ・文の抑揚や単語の発音・アクセントに注意しながら音読することができる。 ・読んだものについて、自分の意見を適切な英語表現を用いてまとめることができる。	パフォーマンステスト	14
	11				
12 1 2 3	課題学習	1 年間学習した、テーマに沿った英文の読み方に従いながら、その他の英文を読み、応用力を養う。	様々な英文を読み、1,2学期で学習したスキルを応用することができる。		15

合計64時間(55分授業)

業)

4 課題・提出物等

- (1) 関正生のThe Rules 英語長文問題集①②の英文解釈と音読
- (2) 共通テストドリル10minutes リスニングのディクテーションと音読

5 評価について

(1) 評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業への取り組み(学習態度、音読など)を総合的に評価します。			

(2) 評価の方法

評価の観点	①コミュニケーションへの関心意欲態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
評価する技能等	授業参加 課題・提出物等	WRITING SPEAKING	READING LISTENING	語句・文構造、文法・語法 文化的背景
評価の割合 (100点換算)	10	10	40	40
パフォーマンス点(%)	100	100	0	0

	考查点(%)	0	0	100	100	
--	--------	---	---	-----	-----	--

※ この割合は年間を通した目安で、学期・単元によって異なることがある。

6 担当者より

(1) 授業について

- ① 目標時間を意識して、英文を読み、設問に答えます。(わからない語彙も辞書なして読み進めます。)
- ② 間違えた箇所を中心に、授業で疑問を解消します。

(2) 復習について

- ① 一文ずつ丁寧に英文解釈をします。
- ② 理解できたら、音声を聞き、同じスピードで音読します。

令和5年度授業シラバス(英語セミナーC)

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
外国語	英語セミナーC	3	2	
使用準教科書	LANDMARK Fit English Communication II (啓林館) Vision Quest English Expressions II Hope (啓林館)	副教材等	関正生のThe Rules 英語長文問題集① 関正生のThe Rules 英語長文問題集② 共通テストドリル10minutes 英語リーディング 共通テストドリル10minutes 英語リスニング	

1 学習目標

- (1)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- (2)英語で情報や考えなどを的確に理解する力を養う。
- (3)他の人に英語で自分の考え等を適切に伝える能力を身につける。
- (4)論理の展開や表現の工夫を行い、応用的、発展的に英語を運用できる力を養う。

2 指導の重点

- (1)日常で起きた事象や社会的な出来事を読み、要点を捉えて理解すること
- (2)読解を通して作者の意図を素早く理解して整理できること
- (3)読んで理解したことを整理して自分の意見をまとまりのある文章で書くこと

3 授業計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	評価の観点	実技	評価	時間
4	各ユニットのテーマ 1 科学	ア 英文を読む	・英文を読解をして、作者の主張を理解することができる。	パフォーマンステスト	中間 考査	8
5	2 生活 3 文化 4 生物	イ 要点を整理して問題に解答する	・制限字数内で段落構成を意識しながら要点をまとめることができる。			
6	5 科学 6 文化 7 フィクション	ウ 単元の習得目標項目を意識して訳す	・文の抑揚や単語の発音・アクセントに注意しながら音読することができる。			
7	8 科学 9 歴史 10 生物	エ 自分の言葉でまとめる オ 語彙・語法の整理	・読んだものについて、自分の意見を適切な英語表現を用いてまとめることができる。			
8		・日常で起きた事象に関する英文を読んで、英語で意見をまとめる。			中間 考査	14

10	11 文化 12 国際社会 13 環境 14 歴史 15 言語	ア 英文を読む イ 要点を整理して理解する ウ 自分の言葉で要点をまとめる エ 発表する オ 語彙・語法の整理	・英文を読解して、作者の主張を理解することができる。 ・制限字数内で段落構成を意識しながら要点をまとめることができる。 ・文の抑揚や単語の発音・アクセントに注意しながら音読することができる。 ・読んだものについて、自分の意見を適切な英語表現を用いてまとめることができる。	パフォーマンステスト	14
	11				
12 1 2 3	課題学習	1 年間学習した、テーマに沿った英文の読み方に従いながら、その他の英文を読み、応用力を養う。	様々な英文を読み、1,2学期で学習したスキルを応用することができる。		15

合計64時間(55分授業)

業)

4 課題・提出物等

- (1) 関正生のThe Rules 英語長文問題集①②の英文解釈と音読
- (2) 共通テストドリル10minutes リスニングのディクテーションと音読

5 評価について

(1) 評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業への取り組み(学習態度、音読など)を総合的に評価します。			

(2) 評価の方法

評価の観点	①コミュニケーションへの関心意欲態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
評価する技能等	授業参加 課題・提出物等	WRITING SPEAKING	READING LISTENING	語句・文構造、文法・語法 文化的背景
評価の割合 (100点換算)	10	10	40	40
パフォーマンス点(%)	100	100	0	0

考查点(%)	0	0	100	100
--------	---	---	-----	-----

※ この割合は年間を通した目安で、学期・単元によって異なることがあ

る。

6 担当者より

(3) 授業について

- ① 目標時間を意識して、英文を読み、設問に答えます。(わからない語彙も辞書なして読み進めます。)
- ② 間違えた箇所を中心に、授業で疑問を解消します。

(4) 復習について

- ① 一文ずつ丁寧に英文解釈をします。
- ② 理解できたら、音声を聞き、同じスピードで音読します。

令和5年度授業シラバス（フードデザイン）

教科名	科目名	履修学年	単位数	担当者
家庭	フードデザイン	3	2	
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルカラーコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。			
使用教科書	教育図書出版 『フードデザイン』	副教材等	ビジュアルクッキング（教育図書） 生活学Navi 2022資料+成分表（実教出版）	

1 学習の目標

調理実習を中心に、生活的自立を目指し、健康で安全な食生活を営むために必要な基礎的・基本的な技術・知識を身に付ける。また、実習と関連付けて栄養と食品について学び、食事を楽しむ食卓作りについても考える。

2 学習の方法

(1) 予習について

- ①事前に教科書、資料集の内容を確認しておきましょう。
- ②日常生活において調理に携わる時間をつくるようにしましょう。
- ③食に関する新聞記事などに目を通し、食に関する知識を身につけられるよう努めてください。

(2) 授業について

- ①教科書、資料集、必要に応じてプリントなどを用いて学習します。板書を写すだけでなく、積極的に授業に参加するようにしましょう。
- ②実習の授業では、安全に怪我のないように細心の注意を払い、準備、後片付けも含めて、積極的に活動しましょう。

(3) 復習について

授業の内容をしっかりと定着させ、学んだ知識と技術を生かして、各自の家庭生活や地域の生活を見つめ、主体的に課題を見いだし、これを改善充実させましょう。

(4) 家庭学習について

課題を出す場合があります。提出日に遅れないようにして下さい。

(5) その他

3 評価について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活に関する問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見いだし、思考を深め、食育推進するための創意工夫をし、表現する能力を身に付けている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身に付けている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付けている。

(2) 評価の方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の割合 (100点換算)	10	20	30	40
平常点(%)	100	20	80	20
考查点(%)	0	80	20	80

* この割合は年間を通した目安で、学期・単元によっては異なることがある。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	時間	考查等
4 7	第1章 食生活と健康 第3章 食品の特徴・ 表示・安全	○食生活分野（2年次学習分野）の 基礎確認 ○実習献立、補充献立について ・栄養バランス、摂取量の目安 【実習】 ○調理の基本、・包丁の使い方・ 切り方・計量方法（りんごの 皮むき、日常食） 〈VTR「調理実習基礎の基礎」 〉 ○食糧自給率の低下、多様で多 量な輸入食材など日本の食糧事 情の現状と将来について ○食中毒や食品衛生について	【関】自分自身の食生活や日本の食生活の現状に 関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる 。 【思】心身ともに健康で豊かな食生活を営むため の食事のあり方について思考を深め、自分の食生 活の現状を判断することができる。 【知】日本の食生活の現状についての問題点が理 解できる。 【技】日常食、行事食、供応食などの調理に必要 な調理技術の基礎を身につけることができる。 【思】食品について安全や衛生に配慮した適切な 判断ができる。 【知】食品の衛生と安全に関する基本的な知識を 身につけている。	12	期末考 査 プリン ト 実習レ ポート 作品
8 12	第2章 栄養素のはた らきと食事計 画 第4章 調理の基本 第5章 料理様式とテ ーブルコーデ ィネート	○栄養素の種類とはたらき ○食品の特徴と性質 穀類（米、小麦粉）、いも類、 砂糖、豆類、野菜類、くだもの 類、きのこ類、海藻類、魚介類 、肉類、卵、牛乳・乳製品、油 脂類、かんてん・ゼラチン、し 好食品（紅茶・コーヒー）、調 味料・香辛料、加工食品と加工 方法等 ○調理操作 食材の切り方、だしをとる、ゆ でる、煮る、蒸す、焼く、炒め る等 【実習】調理献立 ○和風・洋風・中華風・デザー ト・行事食・郷土料理等 ○実習道具の確認 ○食卓構成や食卓作法、供応に 伴うマナー 〈VTR「楽しい食事のマナー 〔和食・洋食〕」〉 ○カラーコーディネート基礎学 習 【実習】 フラワーアレンジメント実習 〈VTR「かんたんテーブルコーデ ィネート」〉	【思】からだの中でそれぞれの栄養素がどのよう なはたらきをしているのかを考えることができる 。 【技】食品の特徴、調理上の性質及び調理による 成分の変化について実習を通して観察し、考察す ることができる。 【知】摂取した食物が消化・吸収され排泄される までのしくみが理解できる。 【思】食物のおいしさは、味・香・色・テクスチ ャー・温度など関わっており、調味、加熱やそ の他の調理操作が料理のできあがりを与える影響 について思考を深めることができる。 【関】調理の目的について、安全性、栄養、嗜好 、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうと する意欲が感じられる。 【技】実習をとおして、調理操作により料理ので きあがりに大きく影響することを観察し、考察す ることができる。 日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理 技術の基礎を身につけることができる。 【関】日本料理、西洋料理、中国料理など代表的 な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持 とうとしている。季節や行事、食事の目的などに 応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じ られる。 【技】様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴う マナーを身につけることができる。 日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理 様式について、それぞれの特徴や献立構成を理解 できる。	50	期末考 査 プリン ト 実習レ ポート 作品
1 2	課題学習	1年間の実習の記録をまとめる (レシピ集作成)	【思】1年間の学習を通して食に関する知識、技 術を深めることができる	2	レシピ 集

計 64 時間 (55 分授業)